

(様式第10)

厚生労働大臣 殿
令和 4 年 9 月 30 日
開設者名 学校法人 聖マリアンナ医科大学
理事長 明石 勝也
番 聖医大管第392号 号

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
氏名	学校法人 聖マリアンナ医科大学 理事長 明石 勝也

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

聖マリアンナ医科大学病院

3 所在の場所

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
電話(044)977-8111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科		2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input type="radio"/>		11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						無	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
川崎市立多摩病院の歯科口腔外科と連携し、歯科の診療体制を整備している。							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	消化器・肝臓内科	2	代謝・内分泌内科	3	脳神経内科	4	腫瘍内科	5	神経精神科
6	乳腺・内分泌外科	7	形成外科	8	病理診断科	9	リハビリテーション科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位: 床)
52床	0床	0床	0床	1,123床	1,175床	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	675	208	688.5	看護補助者	112	診療エックス線技師	0	
歯科医師	0	0	0	理学療法士	27	臨床検査 臨床検査	臨床検査技師	114
薬剤師	79		79	作業療法士	10		衛生検査技師	0
保健師	88	2	89.5	視能訓練士	7		その他	0
助産師	40	1	40.5	義肢装具士	0		あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1065	53	1094.2	臨床工学士	44	医療社会事業従事者	15	
准看護師	0	0	0	栄養士	2	その他の技術員	55	
歯科衛生士	0	0	0	歯科技工士	0	事務職員	277	
管理栄養士	21	3	22.6	診療放射線技師	79	その他の職員	0	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	62人	眼科専門医	14人
外科専門医	46人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	17人
小児科専門医	22人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	29人
泌尿器科専門医	8人	麻酔科専門医	10人
産婦人科専門医	20人	救急科専門医	15人
		合計	276人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大坪 毅人) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

業務経験

・平成29年4月1日より医療安全対策委員長及び医療安全管理担当副院長に就任。

業務内容

- ・毎月1回医療安全対策委員会へ出席し審議。
- ・院内のインシデント・アクシデント報告を受け、案件により臨時医療安全対策委員会開催を指示。
- ・医療安全管理室より案件報告を受け、毎月1回病院としての対応を協議。
- ・毎月1回患者相談全記録の確認。
- ・全国医学部長病院長会議等からの『医療安全情報』を確認し、当該部署へ情報提供。
- ・日本私立医科大学協会の相互ラウンド(当院への訪問)に参加。
- ・医療安全関連の教職員研修会に参加。
- ・横浜地方裁判所の医療訴訟関係協議会へ出席。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	735 人	0 人	735 人
1日当たり平均外来患者数	2007 人	0 人	2007 人
1日当たり平均調剤数			1329 剤
必要医師数			193 人
必要歯科医師数			0 人
必要薬剤師数			25 人
必要(准)看護師数			435 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	(※内訳、下記参照) 784.8 m ²	RC造	病床数	40 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 98.88 m ² [移動式の場合] 台数 3 台		病床数	10 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 40.5 m ² [共用室の場合] 共用する室名		薬剤部(TDM室 薬物血中濃度モニタリング室)			
化学検査室	360 m ²		(主な設備)	フリーザー、浸透圧測定装置、分光光度計、生化学自動分析装置 純水装置、安全キャビネット、乾熱滅菌器、自動分注仕分装置		
細菌検査室	153 m ²		(主な設備)	測定機器、フラン器、高圧滅菌器、遠心機、顕微鏡、冷蔵冷凍庫等		
病理検査室	385.96 m ²		(主な設備)	システムバーコード印字機、自動包埋装置、自動染色装置		
病理解剖室	134.81 m ²		(主な設備)	解剖台、高圧滅菌装置、真空パック装置		
研究室	1,874.54 m ²		(主な設備)	遠心分離機、超低温フリーザー、顕微鏡、高圧タンク、超純水装置		
講義室	1,547.35 m ²		室数	5 室	収容定員	1,164 人
図書室	1,016.96 m ²		室数	1 室	蔵書数	140,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

※集中治療室

ICU	7床	145.6m ² (1床当たり20.8m ²)、	3床	67m ² (1床当たり22.3m ²)、	
CCU	6床	107.8m ² (1床当たり17.9m ²)、	SCU	6床	127.4m ² (1床当たり21.23m ²)、
MFICU	6床	106.8m ² (1床当たり17.8m ²)、	NICU	12床	230.2m ² (1床当たり19.14m ²)

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	95 . 2 %	逆紹介率	84 . 9 %
算出 根拠	A: 紹介患者の数	19012 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	19635 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2991 人	
	D: 初診の患者の数	23103 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、明治大学法科大学院教授、山本柴崎法律事務所弁護士	○	日本を代表する民事訴訟法学者であり、医療事故調査委員会外部委員を務めるなど、医療関係の法務についても深い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られているところであり、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
小林 信秋	認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク会 会長		文部科学省や厚生労働省の協力委員や検討委員などを歴任され、様々な立場での見識を有し、長年にわたり患者の立場に立った活動を行い、医療機関の倫理委員等を務め、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院医療安全管理部 教授		心臓外科医の指導医として活躍、国立保健医療科学院政策科学部安全科学室長を務め、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部准教授、東京医科大学医療安全管理学講座主任教授を経て現職。インフェクションコントロールドクター(ICD)、日本医療の質・安全学会理事、日本医療・病院管理学会評議員、日本呼吸器外科学会評議員、横浜市立大学病院外部評価委員会委員長を務める。感染制御および医療安全管理業務の経験を有する委員として見識を有している。人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

益子 まり	川崎市非常勤嘱託産業 員		小児科医として実務経験 後、地域の医療行政を推 進、川崎市保健所長を務 める。医療現場で医療安 全に関する法律が適切に 実施されているのを監督 する立場にあり見識を有 する。 当院の医療安全の実施に 指導的役割を担ってこられ た経験があり、人格、識見 とも優れ、外部委員として ふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律 に関する識見を有する者その 他の学識経験を有する者
中尾 智彦	法務・監査室 室長		法人の法務・監査室長とし て会計監査・業務監査に 携わり、公平な立場で物 事が判断でき、内部委員と してふさわしい。	有	その他

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
聖マリアンナ医科大学病院ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	0
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	黄色靱帯骨化症	12
2	筋萎縮性側索硬化症	35	57	後縦靱帯骨化症	37
3	脊髄性筋萎縮症	8	58	広範脊柱管狭窄症	2
4	進行性核上性麻痺	34	59	特発性大腿骨頭壊死症	94
5	パーキンソン病	375	60	下垂体性ADH分泌異常症	39
6	大脳皮質基底核変性症	11	61	下垂体性TSH分泌亢進症	1
7	ハンチントン病	4	62	下垂体性PRL分泌亢進症	11
8	シャルコー・マリー・トウス病	8	63	クッシング病	7
9	重症筋無力症	112	64	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	23
10	多発性硬化症／視神経脊髄炎	73	65	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	39	66	下垂体前葉機能低下症	125
12	封入体筋炎	2	67	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
13	クドウ・深瀬症候群	2	68	アジソン病	5
14	多系統萎縮症	27	69	サルコイドーシス	96
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	68	70	特発性間質性肺炎	141
16	ライソゾーム病	5	71	肺動脈性肺高血圧症	39
17	副腎白質ジストロフィー	2	72	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	30
18	ミトコンドリア病	19	73	網膜色素変性症	28
19	もやもや病	22	74	原発性胆汁性胆管炎	61
20	プリオン病	4	75	原発性硬化性胆管炎	3
21	HTLV-1関連脊髄症	106	76	自己免疫性肝炎	39
22	全身性アミロイドーシス	4	77	クローン病	117
23	遠位型ミオパチー	1	78	潰瘍性大腸炎	304
24	神経線維腫症	17	79	好酸球性消化管疾患	21
25	天疱瘡	13	80	コステロ症候群	1
26	膿疱性乾癬(汎発型)	8	81	チャージ症候群	3
27	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	82	クリオピリン関連周期熱症候群	2
28	高安動脈炎	32	83	ブラウ症候群	46
29	巨細胞性動脈炎	39	84	筋ジストロフィー	26
30	結節性多発動脈炎	38	85	遺伝性周期性四肢麻痺	1
31	顕微鏡的多発血管炎	93	86	脊髄空洞症	4
32	多発血管炎性肉芽腫症	40	87	脊髄髄膜瘤	3
33	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	46	88	アイザックス症候群	3
34	悪性関節リウマチ	57	89	遺伝性ジストニア	1
35	バージャー病	11	90	脳表ヘモジデリン沈着症	2
36	原発性抗リン脂質抗体症候群	7	91	前頭側頭葉変性症	12
37	全身性エリテマトーデス	447	92	ビッカースタッフ脳幹脳炎	4
38	皮膚筋炎／多発性筋炎	214	93	痙攣重積型(二相性)急性脳炎	4
39	全身性強皮症	141	94	先天性無痛無汗症	1
40	混合性結合組織病	73	95	メビウス症候群	1
41	シェーグレン症候群	129	96	片側巨脳症	2
42	成人スチル病	30	97	神経細胞移動異常症	2
43	再発性多発軟骨炎	65	98	ドラベ症候群	1
44	ベーチェット病	120	99	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	2
45	特発性拡張型心筋症	51	100	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1
46	肥大型心筋症	81	101	レノックス・ガストー症候群	3
47	拘束型心筋症	1	102	ウエスト症候群	6
48	再生不良性貧血	21	103	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	2
49	自己免疫性溶血性貧血	12	104	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1
50	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4	105	ラスマツセン脳炎	1
51	特発性血小板減少性紫斑病	82	106	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1
52	血栓性血小板減少性紫斑病	5	107	スタージ・ウェーパー症候群	5
53	原発性免疫不全症候群	31	108	結節性硬化症	6
54	IgA0腎症	115	109	先天性魚鱗癬	2
55	多発性嚢胞腎	61	110	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	27

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名		患者数
111	マルファン症候群	7	166	胆道閉鎖症	7
112	エーラス・ダンロス症候群	1	167	遺伝性膀胱炎	1
113	ウィルソン病	5	168	嚢胞性線維症	1
114	低ホスファターゼ症	1	169	IgG4関連疾患	39
115	VATER症候群	1	170	黄斑ジストロフィー	3
116	クルーゾン症候群	1	171	遅発性内リンパ水腫	7
117	多脾症候群	2	172	好酸球性副鼻腔炎	43
118	無脾症候群	3	173	先天異常症候群	1
119	ブラダー・ウィリ症候群	1	174	遺伝性自己炎症疾患	1
120	ヌーナン症候群	2	175	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるもの)	1
121	4p欠失症候群	2	176	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	9
122	22q11.2欠失症候群	5	177	特発性多中心性キャッスルマン病	3
123	修正大血管転位症	4	178	ハッチンソン・ギルフォード症候群	1
124	完全大血管転位症	5			
125	単心室症	4			
126	左心低形成症候群	3			
127	三尖弁閉鎖症	7			
128	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	4			
129	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2			
130	ファロー四徴症	20			
131	両大血管右室起始症	7			
132	エプスタイン病	3			
133	アルポート症候群	5			
134	急速進行性糸球体腎炎	18			
135	抗糸球体基底膜腎炎	7			
136	一次性ネフローゼ症候群	66			
137	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3			
138	紫斑病性腎炎	9			
139	オスラー病	17			
140	閉塞性細気管支炎	1			
141	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1			
142	肺胞低換気症候群	2			
143	副甲状腺機能低下症	6			
144	偽性副甲状腺機能低下症	1			
145	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2			
146	フェニルケトン尿症	2			
147	尿素サイクル異常症	2			
148	ポルフィリン症	1			
149	肝型糖原病	1			
150	原発性高カイロミクロン血症	1			
151	家族性地中海熱	5			
152	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1			
153	慢性再発性多発性骨髄炎	1			
154	強直性脊椎炎	27			
155	骨形成不全症	2			
156	軟骨無形成症	1			
157	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	6			
158	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	6			
159	先天性赤血球形成異常性貧血	1			
160	後天性赤芽球癆	4			
161	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	2			
162	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	3			
163	総排泄腔外反症	1			
164	総排泄腔遺残	2			
165	先天性横隔膜ヘルニア	4			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	178
合計患者数(人)	4896

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙施設基準届出状況参照	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙施設基準届出状況参照	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

施設基準届出状況

< 基本診療料 >

- 情報通信機器を用いた診療
- 特定機能病院入院基本料（一般7対1）
- 特定機能病院入院基本料（精神7対1）
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- 診療録管理体制作加算 1
- 医師事務作業補助体制作加算1（20対1）
- 急性期看護補助体制作加算1（25対1）看護補助者5割以上
注2ハ 夜間100対1急性期看護補助体制作加算・注3 夜間看護体制加算・注4 看護補助体制充実加算
- 看護職員夜間配置加算1（12対1）
- 重症者等療養環境特別加算
- 無菌治療室管理加算 2
- 緩和ケア診療加算
- 精神科応急入院施設管理加算
- 精神科身体合併症管理加算
- 精神科リエゾンチーム加算
- 摂食障害入院医療管理加算
- 医療安全対策加算 1
- 感染対策向上加算1
- 患者サポート体制充実加算
- 重症患者初期支援充実加算
- 報告書管理体制加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算

< 特掲診療料 >

- 外来栄養食事指導料（注2）
- 遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料）
- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料 イ
- がん患者指導管理料 ロ
- がん患者指導管理料 ハ
- がん患者指導管理料 ニ
- 外来緩和ケア管理料
- 移植後患者指導管理料 1（臓器移植後の場合）
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 小児運動器疾患指導管理料
- 乳腺炎重症化予防ケア・指導料
- 婦人科特定疾患治療管理料
- 腎代替療法指導管理料
- 一般不妊治療管理料
- 生殖補助医療管理料1
- 院内トリアージ実施料
- 外来放射線照射診療料
- 外来腫瘍化学療法診療料1
- 外来腫瘍化学療法診療料2
- 連携充実加算
- ニコチン依存症管理料
- 療養・就労自立支援指導料
- がん治療連携計画策定料1
- がん治療連携計画策定料2
- ハイリスク妊産婦連携指導料1
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 医療機器安全管理料 2
- 精神科退院時共同指導料1・2
- 重症患者搬送加算
- 在宅血液透析指導管理料
- 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
- 持続血糖測定器加算
- 遺伝学的検査
- 骨髄微小残存病変測定
- BRCA1/2遺伝子検査
- がんゲノムプロファイリング検査
- 先天性代謝異常症検査
- 抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体
- 抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- 検体検査管理加算（Ⅰ）
- 検体検査管理加算（Ⅳ）
- 国際標準検査管理加算
- 遺伝カウンセリング加算
- 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- 長期脳波ビデオ同時記録検査1
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- 胎児心エコー法
- ヘッドアップティルト試験
- 皮下連続式グルコース測定
- 長期継続頭蓋内脳波検査
- 脳波検査判断料1
- 神経学的検査
- 補聴器適合検査
- ロービジョン検査判断料
- コンタクトレンズ検査料 1
- 小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- 前立腺針生検法（MRI 撮影及び超音波検査融合画像によるもの）
- センチネルリンパ節生検（片側）
- 経気管支凍結生検法
- 画像診断管理加算 1
- 画像診断管理加算 3
- CT撮影及びMRI 1撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 外傷全身CT加算
- 心臓MRI 1撮影加算
- 乳房MRI 1撮影加算
- 頭部MRI 1撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- がん患者リハビリテーション料
- 児童思春期精神科専門管理加算（通院・在宅精神療法）
- 療養生活環境整備指導加算（通院・在宅精神療法）
- 療養生活継続支援加算（通院・在宅精神療法）
- 抗精神病特定薬剤治療指導管理料
- （治療抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- 医療保護入院等診療料
- 静脈圧追処置（慢性静脈不全に対するもの）
- 多血小血小板処置
- 人工腎臓
- 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
- 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
- 皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）

- ハイリスク妊娠管理加算
- ハイリスク分娩等管理加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 後発医薬品使用体制加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 2
- テータ提出加算 2及び4
- 入院支援加算 1・3（地域連携診療計画加算/入院時支援加算/総合機能評価加算）
- 認知症ケア加算1
- せん妄ハイリスク患者ケア加算
- 精神疾患診療体制加算
- 精神科急性期医師配置加算
- 地域医療体制確保加算
- 救命救急入院料 1
- 救命救急入院料 4
- 特定集中治療室管理料 3
- ハイケアユニット入院医療管理料1
- 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- 総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児）
- 総合周産期特定集中治療室管理料（新生児）
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料 1

- 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
- 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る。）））
- 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- 椎間板内酵素注入療法
- 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
- 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
- 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- 角結膜悪性腫瘍切除術
- 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
- 緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
- 緑内障手術（濾過胞再建術（needle法）
- 網膜再建術
- 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
- 植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- 耳管用補綴材挿入術
- 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）
- 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
- 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
- 乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）
- 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
- ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
- 肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
- 胸腔鏡下肺悪性腫瘍腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
- 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膈腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
- 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
- 経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮の大動脈弁置換術）
- 経皮的僧帽弁クリップ術
- 不整脈手術（左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの））
- 不整脈手術（左心耳閉鎖術（経カテーテルの手術によるもの）に限る。）
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
- 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
- 両室ベising機能付き植込型除細動器移植術及び両室ベising機能付き植込型除細動器交換術
- 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
- 補助人工心臓
- 経皮的下肢動脈形成術
- 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈・側方）
- 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
- 腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
- バルーン閉塞下逆行性経静脈の塞栓術
- 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
- 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
- 腹腔鏡下肝切除術
- 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 内視鏡的小腸ポリープ切除術
- 腹腔鏡下小切開副腎摘出術
- 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、
腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
- 同種死体腎移植術
- 生体腎移植術
- 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍摘出術
- 膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
- 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
- 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
- 胎児輸血術（一連につき）及び臍帯穿刺
- 体外式膜型人工肺管理料
- 胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
- 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術
- 輸血管理料 Ⅰ
- 自己クリオプレシビート作製術（用手法）及び同種クリオプレシビート作製術
- 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 麻酔管理料（Ⅰ）
- 麻酔管理料（Ⅱ）
- 周術期薬剤管理加算
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 高エネルギー放射線治療
- 1回線量増加加算
- 強度変調放射線治療（IMRT）
- 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 定位放射線治療
- 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- 画像誘導密封小線源治療加算
- 病理診断管理加算 2
- 悪性腫瘍病理組織標本加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	たこつぼ症候群患者に対する運動療法の再発予防効果	明石 嘉浩	循環器内科	300,000	神委	(独)日本学術振興会
2	胎心筋細胞増殖機構Hipp-Yap経路に着目した心不全治療応用への基盤研究	松本 直樹	循環器内科	1,200,000	神委	(独)日本学術振興会
3	腫瘍循環器リハビリテーションのQOLに着目した効果の検証	木田 圭亮	循環器内科	700,000	神委	(独)日本学術振興会
4	ウイルスゲノム組み込みと生体機能情報のリアルタイム血中可視化による革新的肝癌制御	伊東 文生	消化器・肝臓内科	3,200,000	神委	(独)日本学術振興会
5	隣癌等を標的とする革新的消化器系新規腫瘍マーカー・ラミニン γ 2とその機能解析	安田 宏	消化器・肝臓内科	1,000,000	神委	(独)日本学術振興会
6	視線追跡装置を用いた消化器内視鏡治療技術の可視化によるトレーニングシステム開発	前畑 忠輝	消化器・肝臓内科	1,300,000	神委	(独)日本学術振興会
7	臨床検体から同定したピロリ菌ゲノム異常の時空間的な解明に基づく胃癌の革新的制御	山本 博幸	消化器・肝臓内科	3,200,000	神委	(独)日本学術振興会
8	ヒト門脈血液中に検出する細菌種解析による肝疾患形成の解明	渡邊 綱正	消化器・肝臓内科	700,000	神委	(独)日本学術振興会
9	胃液、胆汁、血液を用いた新規癌診断法におけるラミニン γ 2鎖鎖の有用性の解析	清川 博史	消化器・肝臓内科	700,000	神委	(独)日本学術振興会
10	腎代替療法選択におけるSDMの質評価法の確立とその決定因子の臨床疫学的検討	柴垣 有吾	腎臓・高血圧内科	800,000	神委	(独)日本学術振興会
11	慢性腎臓病患者のヘルスリテラシーと患者予後の改善に向けたコホート研究	櫻田 勉	腎臓・高血圧内科	200,000	神委	(独)日本学術振興会
12	GLP-1受容体活性化による2型糖尿病のサルコペニア予防効果とメカニズムの解明	池森 敦子	腎臓・高血圧内科	700,000	神委	(独)日本学術振興会
13	疾患iPS細胞を用いた骨格筋代謝におけるミトコンドリア機能の意義の解明	曾根 正勝	代謝・内分泌内科	800,000	神委	(独)日本学術振興会
14	異種動物体内での機能的な副甲状腺再生	加納 麻弓子	代謝・内分泌内科	1,083,676	神委	(独)日本学術振興会
15	新品種レジスタントスターチ高含有米の糖尿病患者に対する血糖改善効果の検討	中村 祐太	代謝・内分泌内科	1,900,000	神委	(独)日本学術振興会
16	糖尿病治療における新規呼吸アセトン測定の有用性:良好な体重・血糖維持のための活用	中川 朋子	代謝・内分泌内科	1,100,000	神委	(独)日本学術振興会
17	HAMのHTLV-1感染細胞の異常形質を規定するゲノム・エピゲノム制御機構の解析	山野 嘉久	脳神経内科	3,900,000	神委	(独)日本学術振興会
18	4D Flow MRIの潜因性脳梗塞の塞栓源検索における有用性	秋山 久尚	脳神経内科	1,600,000	神委	(独)日本学術振興会
19	パーキンソン病の垂直姿勢保持困難への主観的垂直位測定による評価手法の確立	白石 真	脳神経内科	1,300,000	神委	(独)日本学術振興会
20	HAM患者に対する抗CCR4抗体療法の最適化に関する研究	佐藤 知雄	脳神経内科	900,000	神委	(独)日本学術振興会
21	ウェアラブル端末を用いた多発性硬化症患者のQoL評価方法の開発	櫻井 謙三	脳神経内科	1,500,000	神委	(独)日本学術振興会
22	慢性活動性EBウイルス感染症発症の背景因子としての腸、口腔、鼻腔の細菌叢	新井 文子	血液・腫瘍内科	1,500,000	神委	(独)日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
23	EBV感染腫瘍細胞の根絶を目指した慢性活動性EBウイルス感染症治療法の開発	内田 晶子	血液・腫瘍内科	900,000	神委	(独)日本学術振興会
24	サイトカインプロファイリングに注目したCAEBVの病態解明と治療法の開発	上村 悠	血液・腫瘍内科	400,000	神委	(独)日本学術振興会
25	免疫チェックポイント阻害療法副作用マネージメントのための免疫モニタリング法の樹立	川畑 仁人	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,300,000	神委	(独)日本学術振興会
26	Layilinを中心とした関節リウマチの滑膜細胞増殖・活性化の機構解明	加藤 智啓	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	900,000	神委	(独)日本学術振興会
27	片麻痺モデルへの神経細胞シート移植とリーリン/エフリン経路の臨床応用の可能性	鈴木 登	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,000,000	神委	(独)日本学術振興会
28	機械的ストレスに応答する軟骨の核酸修復とエネルギー代謝の相関解析、治療法への応用	遊道 和雄	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,000,000	神委	(独)日本学術振興会
29	顕微鏡的多発血管炎の新規バイオマーカー・治療標的候補血清ペプチドの網羅的解析	黒川 真奈絵	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	700,000	神委	(独)日本学術振興会
30	自己免疫疾患における新規T細胞及びB細胞サブセットの動態及び機能解析	今村 充	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	700,000	神委	(独)日本学術振興会
31	自己免疫疾患特異的な末梢性ヘルパT細胞と疾患治療効果に伴う遺伝子発現の動的観察	櫻井 恵一	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	800,000	神委	(独)日本学術振興会
32	レビー小体病に由来する老年期精神障害に関する18F-FDG PET所見の検討	笠貫 浩史	神経精神科	600,000	神委	(独)日本学術振興会
33	院内心停止等ビッグデータを用いた小児医療環境の医療安全指標にかかる多施設共同研究	清水 直樹	小児科	1,000,000	神委	(独)日本学術振興会
34	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンの接種部位別の局所反応の比較	勝田 友博	小児科	400,000	神委	(独)日本学術振興会
35	大学病院における動物介在療法の有効性の評価	長江 千愛	小児科	800,000	神委	(独)日本学術振興会
36	プレオマイシンと免疫チェックポイント阻害薬の併用による悪性黒色腫の治療	門野 岳史	皮膚科	1,200,000	神委	(独)日本学術振興会
37	皮膚悪性リンパ腫の包括的な病態解明による新規治療法の提案	宮垣 朝光	皮膚科	1,100,000	神委	(独)日本学術振興会
38	多機能センサパッドでオフレブンス視覚誘発電位の安全な術中利用を確立する	後藤 哲哉	脳神経外科	1,700,000	神委	(独)日本学術振興会
39	乳がんにおける内分泌療法耐性獲得メカニズムの解析	太田 智彦	乳腺・内分泌外科	4,400,000	神委	(独)日本学術振興会
40	脊柱変形における椎間板変性・Modic変性が起こるメカニズムの解明	赤澤 努	整形外科	1,700,000	神委	(独)日本学術振興会
41	外反母趾の病態と新たな治療法確立のための第1TMT関節の解剖学的研究	軽辺 朋子	整形外科	300,000	神委	(独)日本学術振興会
42	未知の機能的リンパ管解剖の探求からリンパ浮腫外科治療の効果を向上させる研究	関 征央	形成外科	1,100,000	神委	(独)日本学術振興会
43	自己細胞を用いた気管の再生	小島 宏司	呼吸器外科	1,200,000	神委	(独)日本学術振興会
44	先天性尿路閉塞疾患に対する胎児期の経尿管治療の臨床応用への可能性の検討	田中 邦英	小児外科	100,000	神委	(独)日本学術振興会
45	尿中CD55/CD9共陽性エクソソームを標的とした膀胱癌の新規診断・治療法の確立	菊地 栄次	腎泌尿器外科	1,000,000	神委	(独)日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
46	がんサイバーシップ向上を志向した妊孕性温存療法の革新的な技術開発	鈴木 直	産婦人科	4,500,000	神委	(独)日本学術振興会
47	卵巣組織凍結Vitrification法における新規凍結融解方法の確立	杉下 陽堂	産婦人科	1,300,000	神委	(独)日本学術振興会
48	人工卵巣を用いたマウス原始卵胞発育の機能的解析	岩端 秀之	産婦人科	1,700,000	神委	(独)日本学術振興会
49	がん患者のための妊孕性温存における卵細胞傷害の原因と改善方法の究明	鈴木 由妃	産婦人科	1,400,000	神委	(独)日本学術振興会
50	新規血管細胞制御シグナル伝達に介入する網膜脈絡膜血管病治療法の開発	高木 均	眼科	1,000,000	神委	(独)日本学術振興会
51	p38-p62シグナル阻害を介した視神経軸索保護機構解明	佐瀬 佳奈	眼科	1,000,000	神委	(独)日本学術振興会
52	疑似回転・疑似直線視覚刺激を用いた前庭動眼反射の可塑性におけるモダリティの検証	肥塚 泉	耳鼻咽喉科	2,900,000	神委	(独)日本学術振興会
53	鼻閉が及ぼす持続的運動と間欠的運動への影響と治療適応の解析	齋藤 善光	耳鼻咽喉科	100,000	神委	(独)日本学術振興会
54	再起型ニューラルネットワークとMR画像を用いた頭頸部癌放射線化学療法の予後予測	富田 隼人	画像診断・IVR	2,600,000	神委	(独)日本学術振興会
55	TAVI後急性腎障害の早期診断に有用な新規バイオマーカーの確立	小幡 由美	麻酔科	1,000,000	神委	(独)日本学術振興会
56	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症における疾患特異的マーカーの検出とその人種別評価	唐澤 里江	メディカルサポートセンター地域連携室(難病相談)	1,100,000	神委	(独)日本学術振興会
57	Track and Triggerによる自動的RRS起動システム開発・多施設検証	吉田 徹	救命救急センター	800,000	神委	(独)日本学術振興会
58	多剤耐性腸内細菌科細菌の耐性機序とバイオフィルムが耐性に及ぼす影響に関する研究	竹村 弘	感染制御部	800,000	神委	(独)日本学術振興会
59	小児・AYA 世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究-患者本位のがん医療の実現を目指して	鈴木 直	産婦人科	13,800,000	神委	厚生労働省
60	がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究-がん医療の充実を志向して	鈴木 直	産婦人科	9,200,000	神委	厚生労働省
61	小児・AYA世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法のエビデンス確立を目指した研究-安全性(がん側のアウトカム)と有効性(生殖側のアウトカム)の確立を目指して	鈴木 直	産婦人科	2,300,000	神委	厚生労働省
62	HAMならびに類縁疾患の患者レジストリを介した診療連携モデルの構築によるガイドラインの活用促進と医療水準の均てん化に関する研究	山野 嘉久	脳神経内科	11,700,000	神委	厚生労働省
63	軟骨炎症性疾患の診断と治療体系の確立	鈴木 登	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	3,420,000	神委	厚生労働省
64	保健・医療関連行為に関する国際分類の我が国への適用のための研究	川瀬 弘一	小児外科	2,300,000	神委	厚生労働省
65	予測不能な乳児突然死(SUID)原因検索プロトコルと制度整備に基づく診断精度向上と実態把握、ならびに睡眠環境因子を含めたSUID/SIDS予防策提言とCDR連携のための研究	清水 直樹	小児科	4,193,000	神委	厚生労働省

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
66	RSウイルス感染による新生児、乳児及び幼児を対象としたパリビズマブの多施設医師主導治験の推進（新規ハイリスク患者対象）	森 雅亮	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	50,806,539	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
67	大量ガンマグロブリン抵抗性川崎病を対象としたアナキンラ多施設共同医師主導治験プロトコル作成に関する研究	森 雅亮	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	5,360,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
68	慢性活動性EBウイルス感染症を対象としたJAK1/2阻害剤ルキソリチニブの医師主導治験	新井 文子	血液・腫瘍内科	16,056,959	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
69	新規HTLV-1感染モデルを用いたHAMの発症予防法・治療法の開発	山野 嘉久	脳神経内科	35,100,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
70	HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の患者レジストリ活用によるエビデンス創出	山野 嘉久	脳神経内科	10,190,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
71	アレクテニブの未治療ALK陽性未分化大細胞型リンパ腫common typeに対する第II相医師主導治験	森 鉄也	小児科	5,150,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
72	COVID-19に係る国際多施設アダプティブランダム化比較プラットフォーム試験を通じた、迅速・効率的な治療法確立のための臨床研究基盤の強化	藤谷 茂樹	救命救急センター	15,150,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
73	救急遠隔医療システムの応用により病院前から院内及び多施設間までのシームレスな情報共有を図り重症化を予防するための医療機器システムの開発	藤谷 茂樹	救命救急センター	7,705,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

合計:73

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Tomoya Tsuchida, Eri Ito, Masanori Hirose 他	総合診療内科	What should physicians be aware of for an early diagnosis of toxic shock syndrome?	Journal of Hospital General Medicine 3巻5号 P164-169 2021年9月	Original Article
2	Kei Morikawa, Naoki Izawa, Hiroataka Kida 他	呼吸器内科	Detection of a pinhole-sized bronchoesophageal fistula under bronchoscopic autofluorescence imaging	Thoracic Cancer 12巻13号 P2043-2045 2021年7月	Case report
3	Ishibashi Yuki, Kotoku Nozomi, Hagiwara Yuta 他	循環器内科	Lessons learned from right ventricular dilatation without pulmonary embolism on contrast enhanced computed tomography in patients with non-severe COVID-19	Journal of St. Marianna University 12巻1号 P15-18 2021年8月	Original Article
4	Ashikaga Kohei, Doi Shunichi, Yoneyama Kihei 他	循環器内科	Impact of perioperative change in physical function on midterm outcomes after transcatheter aortic valve implantation.	Heart and Vessels 36巻7号 P1072-1079 2021年7月	Original Article
5	Koga Masashi, Izumo Masaki, Ishibashi Yuki 他	循環器内科	Transcatheter mitral valve repair with MitraClip in a patient on hemodialysis with huge flail gap.	Cardiovascular Intervention and Therapeutics 36巻2号 P268-269 2021年4月	Original Article
6	Sasaki Kenichi, Nakajima Ikutaro, Higuma Takumi 他	循環器内科	Revisit to the prognostic value of premature atrial contraction burden in 24-h holter electrocardiography for predicting undiagnosed atrial fibrillation - A propensity score-matched study.	Circulation Journal 85巻8号 P1265-1272 2021年7月	Original Article
7	Izumo Masaki, Kuwata Shingo, Ishibashi Yuki 他	循環器内科	Prognostic impact of transcatheter mitral valve repair in patients with exercise-induced secondary mitral regurgitation.	European Heart Journal Cardiovascular Imaging 22巻5号P530-538 2021年4月	Original Article
8	Nakajima Ikutaro, Narui Ryohsuke, Tokutake Kenichi 他	循環器内科	Staphylococcus bacteremia without evidence of cardiac implantable electronic device infection.	Heart Rhythm 18巻5号 P752-759 2021年5月	Original Article
9	Nakayama Yui, Furukawa Toshiyuki, Yamada Marika 他	循環器内科	Polymorphic ventricular tachycardia with QT interval prolongation due to a brain tumor.	Internal Medicine 60巻16号 P2633-2637 2021年8月	Case report
10	Tanabe Yasuhiro, Suzuki Tomomi, Kuwata Shingo 他	循環器内科	Endothelialization of amplatzer PFO Occluder device 12 months after implantation: First-in-human angioscopic assessment.	Journal of Invasive Cardiology 34巻2号 P151 2022年2月	Case report
11	Tanabe Yasuhiro, Suzuki Tomomi, Kuwata Shingo 他	循環器内科	Angioscopic evaluation of atrial septal defect closure device neo-endothelialization.	Journal of the American Heart Association 10巻18号 e019282 2021年9月(オンライン)	Original Article
12	Kida Keisuke, Kitai Takeshi, Suzuki Norio 他	循環器内科	Prognostic implications of reductions in heart rates in patients with acute heart failure and atrial fibrillation.	Circulation Journal 85巻10号 P1869-1875 2021年9月	Original Article
13	Satta Yosuke, Shigefuku Ryuta, Watanabe Tsunamasa 他	消化器・肝臓内科	Prediction of esophagogastric varices associated with oxaliplatin administration	JGH open 5巻11号 P1289-1297 2021年11月	Original Article
14	Sato Junya, Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke 他	消化器・肝臓内科	The Influence of Pre-Procedural Imaging and Cystic Duct Cholangiography on Endoscopic Transpapillary Gallbladder Drainage in Acute Cholecystitis	Diagnostics (Basel) 11巻7号 P1286 2021年7月	Original Article
15	Nakahara Kazunari, Sato Junya, Morita Ryo 他	消化器・肝臓内科	Incidence and management of cystic duct perforation during endoscopic transpapillary gallbladder drainage for acute cholecystitis	Digestive Endoscopy 34巻1号 P207-214 2022年1月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
16	Sato Yoshinori, Yasuda Hiroshi, Nakamoto Yusuke 他	消化器・肝臓内科	Risk Factors for Late Rebleeding of Colonic Diverticular Bleeding in Elderly Individuals	Journal of the Anus, Rectum and Colon 5巻2号 P148-157 2021年4月	Original Article
17	Sato Yoshinori, Ozawa Shunichiro, Yasuda Hiroshi 他	消化器・肝臓内科	Tip-in endoscopic mucosal resection for large colorectal sessile polyps	Surgical Endoscopy 35巻4号 P1820-1826 2021年4月	Original Article
18	Suzuki Tatsuya, Eguchi Akiko, Shigefuku Ryuta 他	消化器・肝臓内科	Accuracy of carbohydrate-deficient transferrin as a biomarker of chronic alcohol abuse during treatment for alcoholism	Hepatology Research 52巻1号 P120-127 2022年1月	Original Article
19	Sekine Akihiro, Nakahara Kazunari, Sato Junya 他	消化器・肝臓内科	Clinical Outcomes of Early Endoscopic Transpapillary Biliary Drainage for Acute Cholangitis Associated with Disseminated Intravascular Coagulation	Journal of Clinical Medicine 10巻16号 P3606 2021年8月	Original Article
20	Sato Yoshinori, Nakatsu-Inaba Satoko, Matsuo Yasumasa 他	消化器・肝臓内科	Efficient Colonoscopic Identification of Colonic Bleeding Diverticulum Using Intradiverticular Water Injection with a Nontraumatic Tube	Journal of the Anus, Rectum and Colon 5巻3号 P313-318 2021年7月	Original Article
21	Maehata Tadateru, Kiyokawa Hirofumi, Nakahara Kazunari 他	消化器・肝臓内科	Successfully combined therapy of Coca-Cola and endoscopic treatment for a giant diospyrobezoar in the duodenum using the electrosurgical endo-knife and ileus tube	Video GIE 6巻10号 P475-477 2021年10月	Case report
22	Yoshida K, Yazawa M, Terashita M 他	腎臓・高血圧内科	False-positive urine dipstick result for proteinuria in a severe case of alkalineuria	Clinical Nephrology 97巻1号 P57-59 2022年1月	Case report
23	Miyauchi T, Osako K, Terashita M 他	腎臓・高血圧内科	Relationship between compensatory hypertrophy of the remnant kidney after donor nephrectomy and albuminuria	Clinical and Experimental Nephrology 25巻8号 P913-914 2021年8月	Original Article
24	Sakurada T, Koitabashi T, Kohatsu K 他	腎臓・高血圧内科	Effect on residual kidney function of shared decision-making in selection of dialysis therapy	Clinical and Experimental Nephrology 25巻11号 P1266-1267 2021年11月	Original Article
25	Noda R, Kamano D, Abe T 他	腎臓・高血圧内科	Granuloma formation after peritoneal dialysis catheter-related infection by Mycobacterium chelonae	Kidney International 100巻6号 P1355 2021年12月	Case report
26	Koyama T, Makinouchi R, Machida S 他	腎臓・高血圧内科	Seasonal changes in the prevalence of hyperkalemia in the emergency department: a single center study	Medicina (Kaunas, Lithuania) 58巻2号 P282 2022年2月	Original Article
27	Yoshida k, Yonaha T, Yamanouchi M 他	腎臓・高血圧内科	Welfare receipt and the risk of vitamin D deficiency in Japanese patients on maintenance hemodialysis: a cross-sectional, retrospective study	Renal Replacement Therapy 7巻45号 P1-8 2021年8月	Original Article
28	Noda R, Ishibashi Y	腎臓・高血圧内科	Successful treatment of recurrent exit site and tunnel infections caused by atopic dermatitis with dupilumab: A case report	Therapeutic Apheresis and Dialysis 26巻1号 P255-256 2022年2月	Case report
29	Murasawa M, Uehara A, Suzuki T 他	腎臓・高血圧内科	Association between pill burden and interdialytic weight gain in patients with hemodialysis: A multi-center cross-sectional study	Therapeutic Apheresis and Dialysis 25巻4号 P475-482 2021年8月	Original Article
30	Kotake H, Yamada S, Ogura Y 他	腎臓・高血圧内科	Endurance exercise training-attenuated diabetic kidney disease with muscle weakness in spontaneously diabetic Torii fatty rats.	Kidney and Blood Pressure Research 47巻3号 P203-218 2021年12月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Ogata M, Miyauchi T, Sakurai Y 他	腎臓・高血圧内科	Hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitors in kidney transplant recipients	Clinical Kidney Journal 15巻5号 P1024-1026 2022年1月	Others
32	Inoue T, Hisamichi M, Ichikawa D 他	腎臓・高血圧内科	The effect of add-on acetazolamide to conventional diuretics for diuretic-resistant edema complicated with hypercapnia: a report of two cases	Internal Medicine 61巻3号 P373-378 2022年2月	Case report
33	Kojima S, Okuyama E, Shibagaki Y 他	腎臓・高血圧内科	Onset of pleuroperitoneal communication detected by remote patient monitoring: A case report	Nephrology (Carlton) 27巻2号 P215-216 2022年2月	Case report
34	Kojima S, Yamada S, Fujishima R 他	腎臓・高血圧内科	Evaluation of modifiable risk factors for peritoneal dialysis-related peritonitis: a single-center retrospective cohort study	Renal Replacement Therapy 7巻25号 P1-7 2021年5月	Original Article
35	Hishida Yoshiaki, Nakamura Yuta, Tsukiyama Hidekazu 他	代謝・内分泌内科	A retrospective cohort study for the treatment of Asian diabetic ketoacidosis: optimizing initial doses of insulin	Acute Medicine & Surgery 8巻1号 e721 2021年12月 (オンライン)	Original Article
36	Yokota Kenichi, Shibata Hirotaka, Kurihara Isao 他	代謝・内分泌内科	CASZ1b is a novel transcriptional corepressor of mineralocorticoid receptor	Hypertension research : official journal of the Japanese Society of Hypertension 44巻4号 P407-416 2021年4月	Original Article
37	Yokota Kenichi, Kurihara Isao, Nakamura Toshifumi 他	代謝・内分泌内科	Remission of Angiographically Confirmed Minocycline-induced Renal Polyarteritis Nodosa: A Case Report and Literature Review	Internal medicine 61巻1号 P103-110 2022年1月	Case report
38	Yokota Kenichi, Kurihara Isao, Matsusaka Yohji 他	代謝・内分泌内科	Mediastinal Cystic Parathyroid Adenoma Diagnosed by Somatostatin Receptor Scintigraphy	Internal medicine 60巻10号 P1555-1560 2021年5月	Case report
39	Iijima N, Yamauchi J, Yagishita N 他	脳神経内科	Clinical course of neurogenic bladder dysfunction in human T-cell leukemia virus type-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis: A nationwide registry study in Japan	Orphanet Journal of Rare Diseases 16巻 P355 2021年8月	Original Article
40	Hagiwara Y, Shimizu T, Yanagisawa T 他	脳神経内科	Utility of transoral motion-mode ultrasonography to detect tongue fasciculation in patients with amyotrophic lateral sclerosis	Muscle & Nerve 63巻6号 P909-913 2021年6月	Original Article
41	Hiroyuki Arai, Yi Xiao, Joshua Millstein 他	腫瘍内科	Germline polymorphisms in genes maintaining the replication fork predict the efficacy of oxaliplatin and irinotecan in patients with metastatic colorectal cancer	Br J Cancer 126巻 P72-78 2021年10月	Original Article
42	Hiroyuki Arai, Eisuke Inoue, Kensei Yamaguchi 他	腫瘍内科	Clinical implications of using both fluoropyrimidine and paclitaxel in patients with severe peritoneal metastasis of gastric cancer: A post hoc study of JCOG1108/WJOG7312G	Cancer Medicine 10巻21号 P7673-7682 2021年11月	Original Article
43	Hiroyuki Arai, Andrew Elliott, Joshua Millstein 他	腫瘍内科	Molecular characteristics and clinical outcomes of patients with Neurofibromin 1-altered metastatic colorectal cancer	Oncogene 41巻 P260-267 2021年11月	Original Article
44	Nagafuchi Hiroko, Goto Yutaka, Kiyokawa Tomofumi 他	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Pregnancy outcomes in patients with rheumatoid arthritis who discontinue methotrexate treatment to conceive	Clinical rheumatology 41巻3号 P669-675 2022年3月	Original Article
45	Sugihara T, Kawahito Y, Morinobu A 他	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Systematic review for the treatment of older rheumatoid arthritis patients informing the 2020 update of the Japan college of rheumatology clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis	Modern Rheumatology 32巻2号 P313-322 2021年5月	Original Article
46	Masaaki Mori, Shinji Akioka, Toru Igarashi 他	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Transitioning from paediatric to adult rheumatological healthcare: English summary of the Japanese Transition Support Guid	Modern Rheumatology 32巻2号 P248-255 2022年2月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
47	Ishizaki Y, Ooka S, Doi S 他	リウマチ・膠原病・ア レルギー内科	Treatment of myocardial fibrosis in systemic sclerosis with tocilizumab.	Rheumatology (Oxford, England) 60巻6号 P205-206 2021年6月	Original Article
48	Kim Yuhwa, Sudo Akina, Oyama Ryo 他	小児科	Isolated Central Nervous System Progression during Systemic Treatment with Brentuximab Vedotin Monotherapy in a Pediatric Patient with Recurrent ALK-negative Anaplastic Large Cell Lymphoma	Journal of Pediatric Hematology/Oncology 43巻6号 P864-866 2021年8月	Original Article
49	Katsuta Tomohiro, Shimizu Naoki, Okada Kenji 他	小児科	The clinical characteristics of pediatric coronavirus disease 2019 in 2020 in Japan	Pediatrics International 64巻1号 P14912 2022年1月	Original Article
50	Keino Dai, Kinoshita Akitoshi, Sudo Akina 他	小児科	Suspected chronic myeloid leukemia-like BCR-ABL1-positive acute lymphoblastic leukemia	Pediatrics international : official journal of the Japan Pediatric Society 63巻6号 P728-729 2021年6月	Case report
51	Keino Dai, Kondoh Kensuke, Kim Yuhwa 他	小児科	Successful treatment with cyclosporine and anti-tumour necrosis factor agent for deficiency of adenosine deaminase-2	Scandinavian journal of rheumatology 50巻3号 P243-245 2021年5月	Case report
52	Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito, Koizumi Satoshi	消化器・一般外科	Novel Modified Blumgart Technique to Reduce Postoperative Pancreatic Fistula After Pancreaticojejunostomy-Compressed Pancreatic Stump(COMPAS) Anastomosis	Journal of Gastrointestinal Surgery 25巻4号 P1082-1086 2021年4月	Original Article
53	Fukuoka Asako, Makizumi Ryouji, Asano Takayuki 他	消化器・一般外科	Surgical Outcomes of Colorectal Cancer Surgery for \geq 85-year-old Patients in Out Hospital : Retrospective Comparison fo Short- and Long-term Outcomes with Younger Patients	Journal of the Auns, Rectum and Colon 5巻3号 P247-253 2021年7月	Original Article
54	Ito Hidemichi, Uchida Masashi, Takasuna Hiroshi 他	脳神経外科	Left transradial neurointerventions using the 6-French Simmons guiding sheath: Initial experiences with the interchange technique	World Neurosurgery 152巻 P344-351 2021年8月	Original Article
55	Miyazawa Tomoyuki, Otsubo Kanji, Sakai Hiroki 他	呼吸器外科	Combining PD-L1 expression and standardized uptake values in FDG-PET/CT can predict prognosis in patients with resectable non-small-cell lung cancer.	Cancer Control 28号 P1-9 2021年8月	Original Article
56	Sakai Hiroki, Kimura Hiroyuki, Otsubo Kanji 他	呼吸器外科	Minichromosome maintenance 2 is an independent predictor of survival in patients with lung adenocarcinoma.	Molecular and Clinical Oncology 16巻1号 P22 2022年1月	Original Article
57	Miyazawa Tomoyuki, Morikawa Kei, Otsubo Kanji 他	呼吸器外科	Solid histological component of adenocarcinoma might play an important role in PD-L1 expression of lung adenocarcinoma.	Thorac Cancer 13巻1号 P24-30 2022年1月	Original Article
58	Ohyama Kei, Fujikawa Atsuko, Okamura Takanori 他	小児外科	The triangular cord ratio and the presence of a cystic lesion in the triangular cord. Suggested new ultrasound findings in the early diagnosis of biliary atresia.	Pediatric Surgery International 37巻12号 P1693-1697 2021年12月	Original Article
59	Kawaguchi Kohei, Obayashi Juma, Koike Junki 他	小児外科	Muscle imbalance as a cause of scoliosis: a study in a fetal lamb abdominal wall defect model	Pediatric Surgery International 37巻12号 P1755-1760 2021年12月	Original Article
60	Furuta Shigeyuki, Nagae Hideki, Ohyama Kei 他	小児外科	Therapeutic effectiveness of costal cartilage grafting into both anterior and posterior walls for laryngotracheal reconstruction in acquired subglottic stenosis	Pediatric Surgery International 37巻5号 P555-559 2021年5月	Original Article
61	Nishiya Yuri, Kawaguchi Kohei, Kudo Kosuke 他	小児外科	The Expression of Transcription Factors in Fetal Lamb Kidney	Journal of developmental biology 9巻2号 P22 2021年6月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
62	Yukio Seki, Akiyoshi Kajikawa, Rintaro Asai 他	形成外科	Functional lymphaticovenular anastomosis for peripheral lymphedema: incision selection methods with muscle pumping.	Plastic and Aesthetic Research 8巻58号 P1-11 2021年11月	Review
63	Yukio Seki, Akiyoshi Kajikawa	形成外科	Fundamental and essential techniques for supermicrosurgical lymphaticovenular anastomosis: the art of Isao Koshimas supermicrosurgery	Plastic and Aesthetic Research 8巻44号 P1-23 2021年8月	Review
64	Seido Takae, Shigeyuki Furuta, Dai Keino 他	産婦人科	Surgical management of unilateral oophorectomy for ovarian tissue cryopreservation in high-risk children and adolescents with varied backgrounds	Pediatric surgery international 37巻8号 P1021-1029 2021年8月	Original Article
65	Yodo Sugishita, Enes Taylan, Tai Kawahara 他	産婦人科	Comparison of open and a novel closed vitrification system with slow freezing for human ovarian tissue cryopreservation	Journal of assisted reproduction and genetics 38巻10号 P2723-2733 2021年10月	Original Article
66	Natsumi Furuya, Junichi Hasegawa, Masatomo Doi 他	産婦人科	Accuracy of Prenatal Ultrasound in Evaluating Placental Pathology Using Superb Microvascular Imaging: A Prospective Observation Study	Ultrasound in medicine & biology 48巻1号 P27-34 2022年1月	Original Article
67	Natsumi Furuya, Junichi Hasegawa, Nao Suzuki	産婦人科	Superb Microvascular Imaging of the Placenta	Donald School Journal of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology 15巻3号 P287-294 2021年9月	Review
68	Nao Suzuki, Yasushi Takai, Masahito Yonemura 他	産婦人科	Guidance on the need for contraception related to use of pharmaceuticals: the Japan Agency for Medical Research and Development Study Group for providing information on the proper use of pharmaceuticals in patients with reproductive potential	International Journal of Clinical Oncology 27巻 P829-839 2022年3月	Original Article
69	Shiho Kuji, Miyuki Harada, Norihito Yoshioka 他	産婦人科	Survival and reproductive outcomes after fertility-sparing surgery performed for borderline epithelial ovarian tumor in Japanese adolescents and young adults: Results of a retrospective nationwide study	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 48巻 3号 P806-816 2022年3月	Original Article
70	Junichi Hasegawa, Tatsuya Arakaki, Akihiko Sekizawa 他	産婦人科	Current status of community-acquired infection of COVID-19 in delivery facilities in Japan	PLoS One 16巻5号 e0251434 2021年5月 (オンライン)	Original Article
71	Okuda H, Obata Y, Kamijo-Ikemori A 他	麻酔科	Quantitative and qualitative analyses of urinary L-FABP for predicting acute kidney injury after emergency laparotomy	Journal of anesthesia 36巻1 号 P38-45 2022年2月	Original Article
72	Nobuyuki Yanagisawa, Takehumi Satoh, Ken-ichi Tabata 他	病理診断科	Cytopathic effects and local immune responses in repeated neoadjuvant HSV-tk + ganciclovir gene therapy for prostate cancer	Asian Journal of Urology 8 巻3号 P280-288 2021年7 月	Original Article
73	Doi Masatomo, Koike Junki, Yoshida Yasuyuki 他	病理診断科	A case of an atypical teratoid/rhabdoid tumor with distinctive histology in the pineal region in an adult patient	Pathology International 71 巻11号P777-782 2021年11 月	Case report
74	Kitaoka Y, Sase K, Tsukahara C 他	眼科	Axonal Protection by Netarsudil, a ROCK Inhibitor, Is Linked to an AMPK-Autophagy Pathway in TNF-Induced Optic Nerve Degeneration	IOVS 63巻1号 P1-10 2022 年1月	Original Article
75	Sekine R, Kogo J, Jujo T 他	眼科	Efficacy of fovea-sparing internal limiting membrane peeling for epiretinal membrane foveoschisis.	Ophthalmic Research 65巻2 号 P162-170 2022年2月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
76	Yoshiyuki Sasano, Fumihiro Mochizuki, Yasuhiro Miyamoto 他	耳鼻咽喉科	Influence of Somatosensory Inputs to the Shoulder on the Semicircular-Ocular Reflex and Otolith-Ocular Reflex.	Global Journal of Otolaryngology 24巻5号 P1-5 2021年10月	Original Article
77	Haraguchi Takafumi, Hamaguchi Shingo	放射線科	Nonselective Bilateral Embolization of Internal Iliac Arteries with N-Butyl-2-Cyanoacrylate in Hemodynamically Unstable Patients with Pelvic Fracture	Interventional Radiology 6巻2号 P37-43 2021年7月	Original Article
78	Okada Yukinori, Takakuwa Yukiko, Ooka Seido 他	放射線科	Usefulness of 123I-BMIPP and 201TlCl nuclide scintigraphy in evaluation of myocarditis in patients with polymyositis or dermatomyositis.	Medicine 100巻36号 e27173 2021年9月(オンライン)	Original Article
79	Kibe Yuichi, Takeda Atsuya, Tsurugai Yuichiro 他	放射線科	Feasibility of marker-less stereotactic body radiotherapy for hepatocellular carcinoma.	Acta Oncologica 61巻1号 P104-110 2022年1月	Original Article
80	Wada Shinji, Arai Yasuaki, Sone Miyuki 他	放射線科	The value of angio-CT system on splanchnic nerve neurolysis	Diagnostic and Interventional Radiology 27巻3号 P408-412 2021年5月	Original Article
81	Tomita Hayato, Yamashiro Tsuneo, Heianna Joichi 他	放射線科	Nodal-based radiomics analysis for identifying cervical lymph node metastasis at levels I and II in patients with oral squamous cell carcinoma using contrast-enhanced computed tomography	European Radiology 31巻10号 P7440-7449 2021年10月	Original Article
82	Ogawa Yukihisa, A Clair Watkins, Bharathi Lingala 他	放射線科	Improved midterm outcomes after endovascular repair of nontraumatic descending thoracic aortic rupture compared with open surgery.	Journal of Thoracic Cardiovascular Surgery 161巻6号 P2004-2012 2021年6月	Original Article
83	Okada Yukinori, Matsushita Shoichiro, Yamaguchi Keiichiro	放射線科	Investigation of Cushings and subclinical Cushings syndromes using adrenocortical scintigraphy	Nuclear Medicine Communications 42巻6号 P619-624 2021年6月	Original Article
84	Okada Yukinori, Shiraiishi Makoto, Hori Koji 他	放射線科	Relationship between cerebral blood flow reduction patterns on scintigraphy and nonmotor symptoms in new-onset Lewy body disease	Nuclear Medicine Review 25巻1号 P18-24 2022年1月	Original Article
85	Hiraki K, Otobe Y, Izawa KP 他	リハビリテーションセンター	Physical activity in patients with pre-dialysis chronic kidney disease is associated with decreased renal function	Clinical and experimental nephrology 25巻6号 P683-684 2021年6月	Others

合計:85

1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。(注)と。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限り。)。

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	---------------------------	----	---------------	------

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	村田 沙子, 栗田真吾, 亀島はる香 他	循環器内科	たこつぼ症候群を発症した神経性食思不振症の1例	Therapeutic Research 42巻7号 P479-483 2021年7月	Original Article
2	庄司達朗	循環器内科	肺気腫患者に合併した感染性心内膜炎に対し緊急手術を要した1例	Therapeutic Research 42巻7号 P476-478 2021年7月	Original Article
3	村松和樹, 土井駿一, 栗田真吾 他	循環器内科	重症心不全・心筋虚血に対する新しい循環保護デバイスの可能性	Therapeutic Research 42巻7号 P471-474 2021年7月	Original Article
4	曾根正勝	代謝・内分泌内科	ヒトES/iPS細胞におけるニコチン性アセチルコリン受容体発現の意義の解析	喫煙科学 36巻1号 P3 2021年4月	Review
5	曾根正勝	代謝・内分泌内科	副腎偶発腫瘍では全例でデキサメタゾン抑制試験が必要ですか？	medicina 58巻9号 P1470-1472 2021年8月	Review
6	久保ゆい, 方波見卓行, 川名部新 他	代謝・内分泌内科	膵癌、甲状腺癌を併発した ARMC5 変異陽性 PMAH の一例	ACTH RELATED PEPTIDES 31巻 P13-15 2021年9月	Case report
7	曾根正勝	代謝・内分泌内科	原発性アルドステロン症の心血管腎合併症リスク	糖尿病・内分泌代謝科 53巻3号 P342-350 2021年9月	Review
8	横田健一	代謝・内分泌内科	様変わりする原発性アルドステロン症の診療 CLEIAとRFAの導入	内科 128巻6号 P1181-1184 2021年12月	Review
9	常見真吾, 方波見卓行, 月山秀一 他	代謝・内分泌内科	識別困難だったカテコラミン軽度高値、サブクリニカクッシング症候群(SCS)を伴った血管嚢胞合併副腎腺腫の1例	ACTH RELATED PEPTIDES 31巻 P16-18 2021年9月	Case report
10	森 雅亮	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	総論 COVID-19の治療 免疫調整薬・免疫抑制薬	小児内科 54巻1号 P50-53 2022年1月	Review
11	森 雅亮	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	小児でみられる血管炎の診かた・考え方.	日本小児皮膚科学会誌 41巻1号 P28-35 2022年2月	Review
12	森雅亮	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	特集 サイトカインストームと小児疾患 I. サイトカインストームの基礎 サイトカインストームの概念	小児科診療 85巻4号 P415-421 2022年3月	Review
13	鈴木登, 鈴木知美, 清水潤	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	ベーチェット病における腸内microbiomeと免疫機能偏倚	日本臨床 79巻 P838-842 2021年6月	Review
14	佐治久	呼吸器外科	Sublobar Resections—Current Evidence and Future Direction.	肺癌 61巻 P880-886 2021年11月	Review
15	大坪毅人	消化器・一般外科	新型コロナウイルス感染症に対する当院の取り組み	医学振興 92巻 P16-19 2021年5月	Others
16	民上真也, 梅澤早織, 勝又健太 他	消化器・一般外科	経腹的アプローチによる縫合閉鎖を行った特発性食道破裂の4例	手術 75巻8号 P1339-1343 2021年7月	Case report
17	井田圭亮, 小林慎二郎, 土橋篤仁 他	消化器・一般外科	急性胃壊死をきたした膵仮性嚢胞感染に対して二期的手術を施行し救命し得た1例	日本腹部救急医学会雑誌 41巻7号 P519-522 2021年11月	Case report
18	増田哲之, 井田圭亮, 小泉 哲 他	消化器・一般外科	回腸瘻導管造設状態患者の小腸穿孔に対する緊急回復術後に偽性腎不全をきたした1例	日本腹部救急医学会雑誌 42巻1号 P105-108 2022年1月	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
19	高城伸平, 民上真也, 天野優希 他	消化器・一般外科	切除不能胃癌に対してSP療法後に Conversion Surgery を施行し長期生存が 得られた1例	癌と化学療法 48巻13号 P1898-1900 2021年12月	Case report
20	小林泰之	放射線科	医療AIの最前線	小児外科 53巻4号 P359- 364 2021年4月	Review

合計:20

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 1.目的および適用範囲、2.定義、3.倫理審査委員会、3.1.倫理審査委員会の審査研究、3.2.倫理審査委員会の構成員、3.3.倫理審査委員会の成立要件、3.4.部会員以外の参加、4.審査の種類、4.1.通常審査、4.2.迅速審査、4.2.1研究計画書の軽微な変更、5.審査手順、5.1.審査申請、5.2.審査準備、5.3.審査、5.4.審査結果、5.4.1.審査結果の種類、5.4.2.審査結果、5.4.3.審査結果通知、6.現状報告、7.研究計画の変更、8.研究中止または終了、9.秘密情報、10.教育・研修、11.事務担当者の責務、11.1.事務担当者の業務	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年8回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義や管理委員会の管理基準、審査方法等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

(注)前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

<p>① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況</p>	<p>【2021年度臨床研究講習会】 ・2021年度臨床研究講習会(A) ・2021年度臨床研究講習会(B) ・2021年度臨床研究講習会(C) ※上記は、全て学内 web システムにて配信している。</p>
<p>・研修の主な内容</p> <p>【2021年度臨床研究講習会(A)】 ・どうして「臨床研究」か？、日本における初めての臨床研究(比較試験)、どのような研究が該当するか？、日常診療と臨床研究の違い、臨床研究で最も大切なことは？、そもそも、臨床研究・臨床試験というものは、必ず「悪」を含むものが臨床試験、臨床試験の損得勘定は、臨床研究に関する規制、医学研究におけるスキャンダルの歴史、医療倫理の四原則の提唱、「医療倫理の4原則」と「ベルモント・レポート」、四原則の意義、ヘルシンキ宣言、同意説明文の記載内容(平易な言葉)、「アンケート」についての追記、倫理審査委員会、申請から倫理審査・承認まで、臨床研究法に拠る届出の流れ、統合指針による申請の流れ、事前登録、2021年指針統合のポイント、統合に際して、統合指針のポイント(1)~(3)、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、臨床研究における大切な区別(その1、2)、侵襲、軽微な侵襲、軽微な侵襲の実例1~2、介入研究、同意取得、データの保管、試料・情報の保管方法、既存資料・情報、既存資料・情報の同意の手続き、モニタリング・監査、「適応外使用」などについての考え方、個人情報保護法と匿名化について、個人情報とプライバシー、用語の解説1、医学研究に大切な用語の説明1、「匿名加工情報」、「研究」は特別扱いされている！、用語の説明2、有害事象について(治験の場合を含む)、有害事象の定義、明らかに違う、と感じても、有害事象と重篤な有害事象、治験依頼者から規制当局への副作用報告期限、まとめ:「有害事象が発生したら・・・」、資料の保管とSDV、SDVの実際(治験の例)、「特定臨床研究」の範囲について、法律に基づく資金提供の公表範囲、Conflict of Interest について、ゲルシンガー事件にみる深刻な利益相反状態、利益相反の開示、COIの報告義務、公益通報、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究(比較試験)</p> <p>【2021年度臨床研究講習会(B)】 ・どうして「臨床研究」か？、日本における初めての臨床研究(比較試験)、日常診療と臨床研究の違い、臨床研究で最も大切なことは？、そもそも、臨床研究・臨床試験というものは、必ず「悪」を含むものが臨床試験、臨床試験の損得勘定は、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、実際に臨床研究計画を立てよう、プロトコール(計画書)作ることの意味、臨床研究の種類、どんな臨床研究が素晴らしいか？、-研究デザインと根拠の強さ -科学的根拠の質の分類- -研究デザインの分類-、臨床試験の王様、エステ通いのケースレポート、エステ通いのケースシリーズ、治療しない人たちはどうなるか？、無作為化コントロール試験・ランダム化比較試験、盲検化(マスク)・二重盲検化とは？、プラセボの必要性、エラーとバイアス、バイアスを減らす努力(1)~(3)、臨床試験事前登録の必要性、科学的理由:「出版バイアスの防止」、観察研究の典型であるレジストリー研究を考える、頭の中で考えること、介入研究と観察研究の違い、具体的なお話、1.目的がよくわからない、2.目的が2つ(以上)、研究計画はなるべく単純に！、3.比較試験の基準が不明確、4.サンプルサイズが適切でない、探索型研究を上手に利用する、研究デザインの分類、観察研究のコツ、前向き観察研究の利点とコツ、有害事象と試験デザイン・試験実施、有害事象について(治験の場合を含む)、有害事象の定義、明らかに違う、と感じても、有害事象と重篤な有害事象、「重篤な有害事象」の定義、「重篤」は「重症度」と一致しない、有害事象に対する対応、試験開始前までに行う準備、試験薬(治験薬)との因果関係判定基準、試験薬(治験薬)との因果関係、治験依頼者から規制当局への副作用報告期限、まとめ:「有害事象が発生したら」、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究(比較試験)</p> <p>【2021年度臨床研究講習会(C)】 ・臨床研究と言ってもいろいろあって…用語だけでも混同しやすく…、研究デザインの分類、臨床試験(trial)の分類、臨床研究等の分類の整理、つまり…臨床研究の手続きにおいては…、[申請書類入手の実際の手順]、患者同意説明文(各自で作成)、迅速審査(書面審査)、通常診療よって得られた診療情報を用いる観察研究、他の研究機関への既存試料・情報の提供に関する届出書、有害事象報告で頻発する失敗、とにかく、申請関連の作業の時に、「適応外使用」などについての考え方、未承認薬などを使う時の現実的問題、未承認薬を使用する場合・適応外使用をする場合 本学のルール(特定機能病院の場合)、未承認の手技・高難度の手技を導入する場合 本学のルール(特定機能病院の場合)、その他(お問合わせ先)</p>	

(注)前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本学には、後期研修プログラムとして「任期付助教」と「大学院」の2つのコースが設けられている。
「任期付助教」は、3～5年間で専門分野の研修を行うが、特に内科学9分野・外科学5分野については、細分化された研修に入る前の前半2～3年間で各分野をラウンドする内容となっており、広汎な疾患を経験した後で各専門領域の研修を行うことができる。
任期付助教終了後は専門医の申請が可能であり、またこの期間は本学の規定により研究歴として加算されるため、学位申請も可能となっている。
一方、「大学院」は指導教授の指導のもと4年間学術研究を行い、その研究成果を取りまとめ提出、学内の最終審査に合格すれば博士(医学)の学位が取得できる。
なお、大学院学生は身分を有しつつ「診療助手」として病棟・外来の診療業務につくことが出来る制度があり、大半の大学院学生は研究に専念する期間以外にも自分の目指す臨床分野の後期研修を行っており、このコースでは、学位取得と同時に専門医の取得も可能である。

(注)上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	245人
-------------	------

(注)前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
安田 宏	内科	部長	38年	
峯下 昌道	呼吸器内科	部長	36年	
明石 嘉浩	循環器内科	部長	26年	
立石 敬介	消化器内科	部長	29年	
柴垣 有吾	腎臓内科	部長	29年	
曾根 正勝	代謝・内分泌内科	部長	26年	
山野 嘉久	脳神経内科	部長	29年	
新井 文子	血液内科	部長	34年	
川畑 仁人	リウマチ科	部長	30年	
砂川 優	腫瘍内科	部長	19年	
古茶 大樹	神経精神科	部長	36年	
清水 直樹	小児科	部長	32年	
大坪 毅人	消化器外科	部長	36年	
宮入 剛	心臓血管外科	部長	39年	
佐治 久	呼吸器外科	部長	27年	
古田 繁行	小児外科	部長	26年	
津川 浩一郎	乳腺・内分泌外科	部長	35年	
村田 英俊	脳神経外科	部長	27年	
仁木 久照	整形外科	部長	38年	
梶川 明義	形成外科	部長	38年	
門野 岳史	皮膚科	部長	30年	
菊地 栄次	泌尿器科	部長	28年	
鈴木 直	産婦人科	部長	32年	
徳田 直人	眼科	副部長	23年	

小森 学	耳鼻咽喉科	部 長	18年	
三村 秀文	放射線科	部 長	35年	
井上 莊一郎	麻酔科	部 長	30年	
小池 淳樹	病理診断科	部 長	31年	
藤谷 茂樹	救急科	部 長	32年	
佐々木 信幸	リハビリテーション科	部 長	25年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容・ 研修の期間・実施回数・ 研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容・ 研修の期間・実施回数・ 研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容・ 研修の期間・実施回数 該当なし・ 研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 大坪 毅人	
管理担当者氏名	事務部長 安藤 あゆ	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	事務部管理課
		各科診療日誌	事務部管理課
		処方せん	薬剤部、IT戦略推進室、診療記録管理室
		手術記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		看護記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		検査所見記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		エックス線写真	IT戦略推進室、診療記録管理室
		紹介状	IT戦略推進室、診療記録管理室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事部人事課
		高度の医療の提供の実績	事務部管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部管理課
		高度の医療の研修の実績	事務部管理課
		閲覧実績	事務部管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務部管理課、薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

診療記録全般の運用管理は、診療記録管理規程、並びに医療情報システムに関する規程を定めて管理しております。電子カルテに関しては、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づく規程で運用管理しております。診療記録の病院外への持ち出しは、附属病院個人情報保護方針に則り持ち出し禁止であることを教職員に周知しております。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	クリニカルエンジニア部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	クリニカルエンジニア部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	クリニカルエンジニア部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	クリニカルエンジニア部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療記録管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	事務部管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	人事部人事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室 薬剤部 クリニカルエンジニア部
		管理者が有する権限に関する状況	総務部総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法務・監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	(1) 診療記録管理室長 門野岳史	
閲覧担当者氏名	(1) 診療記録管理室主幹 土井正美	
閲覧の求めに応じる場所	(1) 診療記録管理室	
閲覧の手続の概要		
(1) 診療記録関係は、診療記録管理室 診療記録の閲覧は「大学病院における診療記録に関する運用管理規程」に基づき行っている。 診療記録の開示は「大学附属病院における診療情報に関する開示規程」に基づき行っている。 「診療記録等開示申請書」による申請時に請求者確認を身分証等で行い、主治医、診療部長、 病院長等に許可申請を行い、決裁後に提供を行っている。		
(2)(1) 以外は、事務部管理課		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的考え方 2. 用語の定義 3. 委員会、体制 4. 職員研修 5. 報告制度 6. インシデント・アクシデント・合併症の診療記録記載 7. 重大アクシデント等発生時の対応 8. 医療事故調査制度支援センターへの報告 9. 患者からの相談への対応 10. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有 11. マニュアルの整備 12. 指針の改訂 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ 有・無 ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全統括会議 <p>開催状況：年12回 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理に係る基本方針、管理体制に関すること (2) 医療安全対策、推進、教育に係る立案とその実施 (3) 院内死亡事例の検討 (4) アクシデント、合併症事例の検討 (5) 安全管理にかかわる職員への周知、研修に関すること (6) 安全管理のため立案された改善策の実施状況の調査、見直しに関すること (7) 医療安全に係る各部門、各委員会からの報告事項の検討と承認 (8) 病院長からの諮問事項に関すること (9) その他、医療安全の推進に関すること 2. セーフティマネージメント委員会： <p>開催状況：年12回 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事故等の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 (2) マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価 (3) 医療安全管理の推進に関する事項 (4) その他セーフティマネージャーの業務に関する事項 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 21回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>第1回 医療安全職員研修会「2020年度重大インシデント・アクシデント」 e-learning研修</p> <p>第2回 医療安全職員研修会「輸血間違い重大事故発生」 e-learning研修</p> <p>特定機能病院承認要件について e-learning研修</p> <p>新入職オリエンテーション 研修医オリエンテーション 研修医療安全講習会 集合教育</p>	

看護師経年別研修（2年目、3年目、4年目、5年目）集合教育
委託業者医療研修会 DVD研修

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

2021年1月異型輸血事故発生後は【輸血事故根絶TF】を立ち上げ、2021年度は11回開催し、再発防止策として以下活動を継続している。

- 1) 輸血時のクロスモニタリング実施
- 2) 看護部、医療安全管理室によるラウンド実施
- 3) 輸血業務担当者（主任）を決定
- 4) 患者参画の取組み
- 5) 輸血現場の脆弱性の検証
- 6) 教育、研修実施

インシデントア・クシデント発生後、病院として再発防止策が必要な事例においてはワーキンググループを立ち上げ再発防止策を検討し活動している。

【経皮的ドレナージチューブ抜去に関するWG】

9月 経皮経肝の胆道・肝膿瘍ドレナージチューブ抜去に関する基準と手順を作成し、医療安全マニュアル 各論に掲載した。同様のインシデントは発生していない。

【薬剤誤接続予防のWG】

マニュアル作成し、11月にトライアル期間を設けて実施した。アンケート調査結果より業務負担の意見もあった。しかし、誤接続防止のため必要な行為であり、実施可能な方法を再検討し、マニュアル改訂した。

【手術室レントゲン確認に関するWG】

手術室から退室時の胸部単純写真確認事項として、小三J読影法・チェック項目を作成した。手術部運営委員会で周知後、1月のセーフティマネジメント委員会で提示。2022年4月医療安全マニュアルに掲載した。

【4病院合同中心静脈カテーテル挿入マニュアル作成WG】

法人他施設でアクシデント事例が発生したため、法人4病院でワーキンググループを立ち上げマニュアル改訂した。

【転倒・転落防止に関するWG】

ワーキンググループを1回webで開催した。医療安全マニュアル 転倒転落要因の見直し・改訂作業と小児領域リスクマネジメントナース会で作成した医療安全マニュアル 転倒転落事故防止について<小児>承認作業を実施した。転倒・転落予測システム Coroban導入に向けた運用について検討した。

【新生児に対する輸血バックからの分割方法検討WG】

8月 輸血マニュアル NICU輸血の分注に関して病棟手順作成、輸血マニュアルを改訂しファイルを配布した。病院全体で統一したことで使い勝手が良くなったという意見がある。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は次の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂（最終改訂 2017年7月18日） 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容：毎月感染委員会が開催されている。委員長は感染制御部部長で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理診断科、事務（施設、人事など）の職員で構成されている。議題の主な内容は次の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関する事、2. 院内感染・アウトブレイクの発生の要因及び対応に関する事、3. 滅菌及び消毒に関する事、4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関する事、5. 原因微生物別感染防止対策に関する事、6. 用途別、菌種別消毒薬に関する事、7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関する事、8. 感染症報告書に関する事、9. 労働災害上の感染措置及び取扱いに関する事、10. 院内感染防止のための検査に関する事、11. 環境微生物検査に関する事、12. 感染性廃棄物の適正処理に関する事、13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関する事、14. 病院長からの諮問事項に関する事、15. その他、感染防止に関する事。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 16回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の内容（すべて）：全職員対象の研修会を年2回開催している。それ以外に、新入職員に対する研修、看護師を対象にした研修などを合計すると年間16回程度の研修会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価 感染防止の推進に関する事項 ※2021年度研修会（全職員対象）内容：「子宮頸がんHPVワクチン」「HPVワクチン -小児科医の立場から-」（第1回感染対策研修会）、「新型コロナワクチン接種の実際」（第2回感染対策研修会） 【対象者別で行った研修会】「院内感染防止対策について」「感染対策の実践」、「SSI学習会」、「ラウンド結果／手指衛生関連データ報告」等 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 病院における発生状況の報告等の整備（有・無） <ol style="list-style-type: none"> 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。 毎月部署毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。 抗菌薬使用状況を集計して報告している。 サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している。 その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 抗MRSA薬・カルバペネム薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認） 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。 ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況		有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況		年 11回
<p>・ 研修の主な内容： 2021年度 医薬品安全使用のための研修会実績 薬剤部</p>		
研修日	研修内容	参加者
4月7日	6西、6北 新入オリエンテーション	薬剤師1名 看護師20名
4月27日	精神科の薬の話	薬剤師1名 看護師4名
5月11日	新人看護師向け勉強会 レジメンについて	薬剤師1名 看護師6名
5月20日～	医薬品適応外・禁忌使用の取り扱いについて	ビデオ配信
7月1日～	医療安全における医薬品取り扱いの注意点	ビデオ配信
9月8日	新人看護師勉強会	薬剤師1名 看護師2名、5南病棟スタッフに動画配信全員視聴
12月17日	レジメン説明会（別館7北病棟）	薬剤師1名 看護師5名
1月21日	キイトルーダ+レンビマ療法について	薬剤師1名 看護師8名
1月27日	8北抗癌剤学習会	薬剤師1名 看護師8名
2月7日	医薬品安全講習会 カリウム注射製剤投与マニュアルおよび注射カートの施用毎の払出	ビデオ配信
2月14日	カリウム製剤の取り扱いについて	薬剤師1名 看護師6名

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (有 ・ 無)
- ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容 :
- ・ 医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修
- ・ 医薬品安全管理に関する定期巡回を年3回実施
- ・ その回ごとに重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する
- ・ 手順書に基づく業務の実施状況の確認

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :

	医薬品・医療機器名	診断名
未承認	ガンシクロビル点眼液 [0.5% 5mL]	サイトメガロウイルス角膜内皮炎
	塩化亜鉛液 [1% 100mL]	慢性上咽頭炎
	上部消化管ベクロメタゾンカプセル 1mg 下部消化管ベクロメタゾンカプセル 1mg	消化管急性移植片対宿主病
	ロイコボリン点眼液 0.003%	眼内悪性リンパ腫
適応外	イリノテカン塩酸塩点滴静注	子宮体癌
	ゲンタマイシン硫酸塩注射液	右大腿骨遠位部粉碎骨折術後感染 骨髓炎
	造影剤	急性心筋梗塞
	エンドキサン	中枢末梢連合脱髄症
	イブリーフ静注	動脈管開存症
	ウプトラビ錠	肺高血圧症
	ジャカビ錠	慢性活動性 EB ウイルス感染症
	リツキシマブ点滴静注	眼内悪性リンパ腫
	プロポフォール静注 1%	不妊症
	プレアミンP注射液	早産児・エプスタイン病
	ミノマイシン塩酸塩点滴静注	頸部郭清術後リンパ漏
	レミケード (インフリキシマブ)	若年性特発性関節炎
	エフィエント (+シロスタゾール+アスピリン)	脳動脈瘤に対するコイル塞栓術施行 後のステント
	ヴェノグロブリン IH	粘液水腫性苔癬

リツキサン	末期腎不全・ABO 適合腎移植
ケタラル (痙攣発作の既往歴のある患者に対する禁忌)	脳波検査
ポテリジオ	HTLV-1 関連脊髄症 (HAM)
イムラン錠 ヴェノグロブリン	抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎
ヴェノグロブリン	帯状疱疹後神経障害
造影剤	非 ST 上昇型急性心筋梗塞
パクリタキセル	甲状腺未分化がん
オランザピン OD 錠 (糖尿病の患者、糖尿病の既往歴のある患者に禁忌)	抗悪性腫瘍剤 (シスプラチン等) 投与に伴う消化器症状
パクリタキセル (アナフィラキシー歴がある患者への再投与)	卵巣癌
イブリーフ、インダシン (血小板減少・凝固障害のある患者に禁忌)	未熟児動脈管開存症
不妊治療薬 (乳癌患者への禁忌)	不妊治療
イブリーフ (血小板減少のある患者に禁忌)	未熟児動脈管開存症
イブリーフ、インダシン (血小板減少のある患者に禁忌)	未熟児動脈管開存症

・ その他の改善のための方策の主な内容：

薬剤部内に医薬品情報室を設置し、PMDA、DSU、海外文献、学会誌、DRUGDEX、大学図書館、製薬会社より最新情報を入手し、DIニュース、院内メール、病棟担当薬剤師等により情報提供を行っている。緊急安全性情報等の特に重大な情報に関しては、閲覧リストを提出することで周知の確認を実施している。また院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知している。
-IT戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 特定機能病院に必要な医療機器研修（人工呼吸器、除細動器）2回 特定機能病院に必要な医療機器研修（AED）1回 特に安全が必要な医療機器の研修（人工心肺）2回 特に安全が必要な医療機器の研修（血液浄化装置）2回 特に安全が必要な医療機器の研修（閉鎖式保育器）1回 特に安全が必要な医療機器の研修（診療高エネルギー放射線発生装置）2回 診療用放射線照射装置（2回） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、X線CT装置（委託）、診療高エネルギー放射線発生装置（委託）、診療用放射線照射装置（委託）、磁気共鳴画像診断装置（委託）、輸液ポンプ、シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、生体情報モニタ、電気手術器、電動手術台、手術用内視鏡システム 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉科（適応外使用） <ul style="list-style-type: none"> 持続性知覚性姿勢誘発めまい患者に対する、経頭蓋磁気刺激機器、刺激コイルの使用 2. 新生児科（適応外使用） <ul style="list-style-type: none"> 超低出生児の腸管穿孔、新生児特発性呼吸窮迫症候群、循環不全患者に対して栄養チューブを尿道カテーテルとして使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> クラスⅢ、クラスⅣおよび医療機器安全管理委員会が必要とした新しい機器が導入される際は、当該機器の使用に携わる医療従事者等の研修を実施することを義務付けている 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>【統括の方法】</p> <p>・医療安全管理室に会議や業務の合間に立ち寄り、スタッフに声を掛け、指示を出す。必要時、管理者への報告を行う。できない場合は、室長や専任医師等に指示を出し、統括を図っている。</p> <p>・ワーキンググループ等にも可能な限り参加している。</p> <p>【医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、放射線管理責任者との連携の方法】</p> <p>・定期的な協議の場がある。また、必要時、その都度、審議している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（13名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>IT 戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。</p> <p>【各種情報の整理】</p> <p>緊急安全性情報、安全性情報、添付文書改訂のお知らせ等が発出された場合、以下のように分類する。</p> <p>①緊急安全性情報</p> <p>②安全性情報</p> <p>③それ以外で特に職員への周知が必要と考えられる情報</p> <p>④その他</p> <p>①～③については書面にて対象薬剤を使用する部署の職員に周知を行う。①～③のうち特に重要な情報については、カンファレンス、看護師対象勉強会を通して薬剤師が周知する。特に重要と判断した情報は定期的にリマインドする。</p> <p>①～③の情報について書面にて情報の周知を行った際、その情報に関わる部署は、部署の職員が情報の伝達を受けた旨の署名を行う。さらに、①～③のうち、特に重要と判断した情報については、MUEを実施し情報伝達内容に沿った診療が行われているか調査する。調査結果を評価した上で、必要に応じ再度注意喚起を行う。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】</p> <p>①～③の情報を指名された薬剤師が把握した場合は、医薬品安全管理責任者名で院内に発出する。また、その情報に関わる部署は、部署の職員が情報の伝達を受けた旨の署名を行う。さらに、①～③のうち、特に重要と判断した情報については、医薬品安全管理責任者の指示でMUEを実施し情報伝達内</p>	

容に沿った診療が行われているか調査する。調査結果を評価した上で、必要に応じ再度注意喚起を行う。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

薬剤師が、調剤、外来指導、病棟業務等において未承認等医薬品の使用を把握した際には、適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて分類し、薬剤管理指導記録に記録し、情報管理部門より上記記録の抽出データを得て、医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が使用状況を把握・確認する。又は医師からの申請により把握する。

【リスク検討の有無、処方の妥当性等の確認】

医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて、重篤度、有用度を評価することで、処方の妥当性について確認する。必要に応じて、処方した医師等に対して処方の必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無を確認する。

【処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理責任者への報告】

医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて分類し、重篤度、有用度が低い分類であった場合、薬剤部の小委員会で評価を行い、使用の可否について診療科の長に評価の結果を基に意見を伝え、必要な場合は処方提案、生命倫理委員会への申請など指導を行う。

・担当者の指名の有無 (・無)

・担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)	(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

・無

・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (・無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
遵守状況の確認

①インフォームドコンセントに用いる説明・同意文書に関する確認

診療記録管理委員会の下部組織である説明・同意検討部会で、説明・同意文書の書式を一括管理している。新規作成文書については、説明・同意検討部会の審査で承認を得たものを使用可としている。院内共通書式でない既存の文書については書式の統一化に努めている。2023年

1月よりシステム変更に伴い電子署名となるため、すべて説明・同意検討部会で審査を行った説明同意文書となる予定である。

② インフォームドコンセントに関する記載内容等の確認

医療安全管理室の報告事例検討委員会等で、患者に実施された医療行為について、事前に適切な説明を行っているか、当該患者の同意を得られているかを確認している。また、診療記録管理委員会では、診療記録・電子カルテへの記載内容の点検に関する協議を行い、下部組織である診療記録評価部会で、記載内容の監査を実施している。

: 指導の内容

- ① 電子カルテに説明内容や同意取得についての記載が不十分である場合は、医療安全管理室から記載者に記載内容について指導を行っている。
- ② 監査実施後は、記載内容の評価結果を取りまとめ、医療安全統括会議や診療記録管理委員会等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。
- ③ 電子カルテでは患者ごとのインフォームドコンセントに関する記事を一括表示出来るよう「インフォームドコンセント」のタイトル入力と、記入漏れをなくすためのテンプレート使用について指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>: 記載内容の確認</p> <ol style="list-style-type: none">① 診療記録等の作成状況を日々確認し、記載不備に関しては、その都度、記載医師や看護師等に記載完了または追記を促している。② 退院時要約は、担当医が作成し、主治医が確認、診療部長が承認する。診療録の管理者は病院全体の作成状況を把握し改善に努めている。未作成の場合は督促を行っている。③ 「診療記録監査実施要綱」に基づき、診療記録監査を適宜実施し記載内容の確認を行っている。 <p>: 指導の内容</p> <ol style="list-style-type: none">① 診療記録管理委員会で、診療記録に関する事項について周知を図っている。② 監査実施後は記載内容の評価結果を取りまとめ、医療安全統括会議や診療記録管理委員会等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無

・所属職員：専従（18）名、専任（1）名、兼任（9）名

うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（5）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（2）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 推進担当に関する業務

(1) 全死亡事例の検証

(2) インシデント、アクシデント、合併症、手術室バリエーションの収集分析

(3) 重大事故発生時の対応

(4) 医療事故調査制度への報告

(5) 安全な医療の実施状況確認のための院内ラウンド及び教育指導

(6) 医療安全に係る職員研修の企画、実施

(7) 診療内容のモニタリング：PE/DVT 発生件数、発生率、転倒転落発生率、インフォームドコンセ

ント看護師同席率

(8) その他医療安全の推進に関すること

2. 危機管理に関する業務

(1) 患者相談窓口寄せられる苦情の受付及び対応

(2) 医療行為に基づく有害事象に対する対応

(3) 重大事故に対する対応

(4) 紛争事例に対する対応

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

当該医療技術の提供の申出があった場合、当該申請の内容の確認と適否。実施の確認。技術の適否について決定し、病院長、診療科の長に対し結果を通知。実施5例までは、手術記録、診療記録等の提

出を求め、記載内容を確認し当該技術について、適正な手続きに基づいて提供されていたか確認。術後の患者が死亡した場合、その他必要な場合にも確認を行っている。実施5例を超えた技術については、半期ごと症例の提出を求め実施状況の確認を行っている。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (31 件) 、及び許可件数 (29 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・ 無)

・ 活動の主な内容 :

- (1) 診療科の長から未承認新規医薬品等の使用の申し出があつた場合、当該申し出の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品・医療機器等評価委員会 (以下「委員会」という。) に対して、当該未承認新規医薬品等の使用の適否及び使用を認める場合の条件などについて意見を求める。
- (2) 当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたか否かについて、診療録等の記載内容及び当該職員の遵守状況を定期的に確認する。また、使用後に患者が死亡した場合、その他必要な場合にも、これらの確認を行う。
- (3) 委員会が未承認新規医薬品等の使用の適否について決定したとき、又は前項の規定により当該職員の遵守状況を確認したときは、その内容について文書で病院長に報告する。
- (4) 委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、当該診療科の長に対してその結果を通知する。
- (5) 委員会での審査資料及び議事概要並びに当該職員の遵守状況の確認資料を、審査の日又は確認の日から少なくとも5年間保存する。
- (6) 当該未承認新規医薬品等の継続使用及び中止を病院長に進言することができる。
- (7) その他未承認新規医薬品等に関する必要な事項について定める。
- (8) 各責任者が適応外使用医薬品等及び禁忌医薬品等の使用の可否、使用条件等について決定したときは、その決定事項について報告を受けるとともに、当該責任者に対し意見を述べる。

(9) 医療機器安全管理責任者が既承認新規医療機器の適正な手続きに基づく使用について確認したときは、その内容について報告を受けるとともに、当該責任者に対し意見を述べる。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 625 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 207 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 医療安全管理に係る基本方針、管理体制に関すること
 - (2) 医療安全対策、推進、教育に係る立案とその実施
 - (3) 院内死亡事例の検討
 - (4) アクシデント、合併症事例の検討
 - (5) 安全管理にかかわる職員への周知、研修に関すること
 - (6) 安全管理のため立案された改善策の実施状況の調査、見直しに関すること
 - (7) 医療安全に係る各部門、各委員会からの報告事項の検討と承認
 - (8) 病院長からの諮問事項に関すること
 - (9) その他、医療安全の推進に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：) ・)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：) ・)
- ・ 技術的助言の実施状況

私立大学病院相互ラウンド：病院訪問なし、慶應義塾大学病院と自己評価票に関する確認事項・質問事項のメールでのやり取りを実施した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況

○ 患者相談窓口を設置

【部署】 医療安全管理室 (患者相談)

【職種】 看護師（兼任）2名、事務 7名

【時間】 平日 8:30~17:00、土曜 8:30~12:30

○相談内容の共有

- 1) 患者相談受理取扱票を作成。当該所属長および担当者へ通知し、必要も応じて解決策を協議して決定している。
- 2) 対応策上、院内で協議が必要な場合は関係者を招集してカンファレンスを開催している。
- 3) 法律上の検討が必要な事案については顧問弁護士と協議を行っている。
- 4) 紛争等の解決策の内容については、その都度病院長へ報告し決済を受けている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

* 別紙参照 2021年度職員研修会開催状況 研修内容と職種別受講数参照

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

2021年度特定機能病院管理者研修受講 (2022年2月14日開催)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2017年4月7日に病院機能評価認定交付

2022年5月30日~6月1日病院機能評価受審

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

なし

・評価を踏まえ講じた措置

なし

(注) 記載時点の状況を記載すること

2021年度 職員研修会開催状況 研修内容と職種別受講数

1) 全職員対象

回数・内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数	
				医師	看護師	その他有資格者	事務員・他		
2021年度	2021年度 第1回 医療安全職員研修 「2020年度 重大インシデントア クシデント」	SafetyPlusによる配 信 配信期間 2021年5月19日 ～6月19日	医療安全管理室 専従医師	全職員 (対象人数 3037 人) ※配信期間内に、 異動、休職、退職 者数14人 未受講者数 317人	541	1143	407	615	2,706
2021年度	2021年度 第2回 医療安全職員研修 「2020年度 重大インシデントア クシデント」	SafetyPlusによる配 信 【再】配信期間 2021年8月2日 ～9月7日	医療安全管理室 専従医師	未受講者 (対象人数 317 人) ※配信期間内に、 異動、休職、退職 者数22人 未受講者数 1人	97	123	21	53	294
2021年度 DVD貸し 出し	2021年度 第1回 医療安全職員研修 「2020年度 重大インシデントア クシデント」	DVDによる受講者	医療安全管理室 専従医師	未受講者 1人	1	/	/	/	1
2021年度 DVD貸し 出し	2021年度 第1回 医療安全職員研修 「2020年度 重大インシデントア クシデント」	DVD貸し出し (2021年1月15日～ 1月22日)	医療安全管理室 専従医師	臨床検査部 (東館15名)	/	/	15	/	15
2021年度 第2回 職 員研修	2021年度 第2回 医療安全職員研修 「輸血間違い重大 事故発生」	SafetyPlusによる配 信 配信期間 2021年12月8日 ～2022年1月24日		全職員 (対象人数 3016 人) ※配信期間内に、 異動、休職、退職 者数40人 未受講者数 189人	541	1165	419	662	2,787
第2回 未受講者 限定	2021年度 第2回 医療安全職員研修 「輸血間違い重大 事故発生」	SafetyPlusによる配 信 【再】配信期間 2022年1月28日 ～2月21日		未受講者 (対象人数 189 人) ※配信期間内に、 異動、休職、退職 者数14人 未受講者数 17人	90	48	4	16	158
第2回 未受講者 限定 再々配信 受講者	2021年度 第2回 医療安全職員研修 「輸血間違い重大 事故発生」	SafetyPlusによる配 信 【再々】配信期間 2022年2月24日 ～3月2日		未受講者 (対象人数 17人) ※配信期間内に、 異動、休職、退職 者数1人 未受講者数 3人	9	2	1	1	13
第2回 未受講者 限定	2021年度 第2回 医療安全職員研修 「輸血間違い重大 事故発生」	医療安全管理室 集合研修	動画参照後、 手書きテスト	未受講者 (対象人数 3人)	2	/	/	/	2

第2回 未受講者 限定	2021年度 第2回 医療安全職員研修 「輸血間違い重大 事故発生」	医療安全管理室 集合研修	2022年5月13日 動画参照後、 手書きテスト	未受講者 (対象者人数 1 人)	1	/	/	/	1
管理者対 象研修	「特定機能病院承 認要件について」	safetyplusによる配 信 配信期間 2022年2月10日～ 3月21日	医療安全管理室長 高難度新規医療技術担当部 門委員長 医薬品安全管理責任者 医療機器安全管理責任者	管理者・ セーフティマネー ジャー 未受講者 (3人)	80	36	20	17	153
管理者対 象研修	「特定機能病院承 認要件について」	医療安全管理室 集合研修 テストのみ	動画参照後、 手書きテスト	未受講者 (対象者数 3人)	3	/	/	/	3

参加者合計 6,133 人

職員一人当たり 2回 / 年

2) 対象者限定研修会

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有 資格者	事務員・ 他	
新入職オリエンテーション 医療安全研修	2021年4月1日～ SafetyPlusによる 受講	医療安全管理室 専従医師	新入職者 (研修医、看護師 除く)	51	/	27	7	85
新入職オリエンテーション 医療安全研修 看護師、助産師	2021年4月2日	医療安全管理室 専従看護師	看護師、助産師	/	169	3	/	172
研修医オリエンテーション 医療安全研修	2021年4月3日 SafetyPlusによる 受講	医療安全管理室 専従医師	研修医	40	/	/	/	40
新規採用者、復職者、 異動者研修 (4月～3月31日)	2021年4月1日～ SafetyPlusによる 受講	医療安全管理室 専従医師	全職員	97	42	42	126	307
看護師経年別研修(2年)	2021年8月10日 2021年8月11日 2021年8月27日	医療安全管理室 専従看護師	看護師	/	136	/	/	136
看護師経年別研修(3年)	2021年6月04日 2021年6月18日 2021年7月11日	医療安全管理室 専従薬剤師	看護師	/	110	/	/	110
看護師経年別研修(4年)	2021年 10月04日 2021年 10月22日	医療安全管理室 専従看護師	看護師	/	53	/	/	53

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員・他	
看護師経年別研修(5年)	2021年 12月02日	医療安全管理室 専従看護師 専従薬剤師	看護師	/	59	/	/	59
委託業者研修	DVD視聴	医療安全管理室 専従薬剤師		/	/	/	44	44
				参加者合計				962 人

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 医師免許を有している者（初期臨床研修修了者） ② 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者 ③ 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 大学病院ホームページにて公表。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由、管理者の選考結果、選考過程について大学病院ホームページにて一般公開。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
別紙 病院長選考委員会 名簿参照				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容。具体的には、病院業務の総括者として、病院の管理運営に必要な人事及び予算の執行権限を有する旨を明記している。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長（5名）がそれぞれの役割を担い、病院長を補佐し、病院長に事故あるときは予め指名された副院長がその職務を代理し、病院長が欠けたときはその職務を行う。
病院顧問は、本院の業務遂行に関し、管理者に助言することができる。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
「中堅事務職員研修会」、「管理者対象医療安全研修」、「評価者研修会」

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：医療安全管理業務の執行状況に関する監査</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：聖マリアンナ医科大学病院ホームページにて公表。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
別紙	監査委員会名簿参照			有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営状況は、開設者（理事長）が招集する法人の意思決定機関たる常任役員会において監督している。本会議では、病院の経常状況のみならず、組織改編など病院の重要課題について審議を行い、病院の健全かつ適正な運営に資するよう取り組んでいる。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 公表の方法 イントラネットを通じて全教職員へ公表している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：常任役員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
明石勝也	聖マリアンナ医科大学	○	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
北川博昭	〃		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
三宅良彦	〃		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
大坪毅人	〃		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
加藤智啓	〃		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
鈴木宣男	〃		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
近藤浩志	〃		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
小宮 清	〃		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
山本真士	〃		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
福嶋弘榮	外部機関		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
清水 至	〃		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 学内イントラネットを通じて全教職員へ公表している。 職員ハンドブック 医療安全マニュアル携帯版第16版に掲載し、新入職者オリエンテーション、中途新採用者研修、異動・復職者研修で教育している。

聖マリアンナ医科大学病院 病院長選考委員名簿

氏名	所属	職名	選定理由	経歴
(委員長) 三宅良彦	聖マリアンナ医科大学	理事	大学病院長選考委員会規程 第3条1号に基づき聖マリアンナ医科大学理事として、大学病院に係る常務を主幹する。	1972年 東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業 1975年 聖マリアンナ医科大学第二内科学助手 1983年 医学博士(聖マリアンナ医科大学) 1987年 聖マリアンナ医科大学 第二内科学助教授 2001年 同 大学 内科学(循環器内科)教授 2008年 同 大学 医学部附属病院病院長 2011年 同 大学 学長 2017年 同 大学 名誉教授・学校法人聖マリアンナ医科大学副理事長
近藤浩志	聖マリアンナ医科大学	理事	大学病院長選考委員会規程 第3条1号に基づき聖マリアンナ医科大学理事として、病院運営および組織管理への識見と経験を有する。	1988年 中央大学経済学部産業経済学科卒業 1988年 富士銀行(築地支店) 入行 1994年 富士銀行(広報部広告宣伝係) 調査役 1995年 富士銀行(本店営業第一部) 課長 1999年 富士銀行(個人開発部プロダクト企画・開発係) 調査役 2003年 みずほ銀行(個人商品開発部ローンチーム) 参事役 2004年 みずほ銀行(新橋支店) 副支店長 2008年 みずほ銀行(個人業務部付) ㈱クレディセゾン出向 みずほ提携推進部長 2011年 みずほ銀行(雷門支店) 支店長 2013年 みずほ証券(連携営業推進部) 営業部長 2014年 みずほ証券(職域営業部) 部長 2016年 みずほ証券(ライフプラン営業部) 部長 2019年 みずほ銀行(向ヶ丘支店付) 本学出向 財務部参事 2020年 聖マリアンナ医科大学 常勤理事
(副委員長) 加藤智啓	聖マリアンナ医科大学	医学部長	大学病院長選考委員会規程 第3条2号に基づき医学部長として、医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1986年 東京大学医学部卒業 1988年 東京大学医学部 物理療法内科学教室医員 1991年 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター助手 1995年 医学博士(東京大学) 1996年 聖マリアンナ医科大学 内科・臨床検査医学 講師 1998年 米国アラバマ州立大学医学部 客員研究員 1999年 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター 助教授 2007年 同 大学 生化学主任教授 同 大学 大学院 疾患プロテオーム・分子病態治療学 教授 2011年 同 大学院 医学研究科長 2014年 同 大学 医学部長
遊道和雄	聖マリアンナ医科大学	研究科長	大学病院長選考委員会規程 第3条3号に基づき研究科長として、医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1985年 鹿児島大学医学部卒業 1985年 富山医科薬科大学附属病院整形外科研修医 1990年 高岡市民病院整形外科 1994年 医学博士(富山医科薬科大学) 1995年 米国スタンフォード大学放射線腫瘍学教室留学 1996年 富山医科薬科大学医学部整形外科助手 2000年 英国グラスゴー大学リウマチセンター留学 2003年 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター 講師 2007年 同 大学 難病治療研究センター 准教授 2010年 同 大学 大学院 難治性疾患病態制御学教授 2011年 同 大学 難病治療研究センター長 2020年 同 大学 大学院 医学研究科長
峯下昌道	聖マリアンナ医科大学	副院長	大学病院長選考委員会規程 第3条4号に基づき大学病院副院長として、医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1986年 防衛医科大学校 卒業 1988年 陸上自衛隊海田市駐屯地医務室医官 1997年 医学博士(広島大学) 1997年 国家公務員共済組合連合会三宿病院内科医師 (兼自衛隊中央病院医官) 1999年 防衛庁陸上自衛隊幕僚監部衛生部医務班医療管理係長 2001年 自衛隊第9師団院外東診療科部長 2003年 自衛隊熊本病院内科部長兼兼任診療科部長 2006年 聖マリアンナ医科大学 内科学(呼吸器・感染症内科) 講師 2008年 同 大学 内科学(呼吸器・感染症内科) 准教授 2015年 同 大学 内科学(呼吸器内科) 教授 2017年 同 大学附属大学病院 副院長
本館教子	聖マリアンナ医科大学病院	看護部長	大学病院長選考委員会規程 第3条5号に基づき大学病院看護部長として、看護師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1981年 信州大学医療技術短期大学部卒業 1981年 財団法人 三友堂病院 1985年 看護教員養成課程 修了 1985年 財団法人 三友堂病院看護専門学校 1999年 聖マリアンナ医科大学病院 2003年 同 病院 主任看護師 2005年 同 病院 看護部長 2007年 同 病院 看護副部長 2014年 同 病院 看護部長 2016年 認定看護管理者取得 2020年 看護統括担当執行役員
二川一男	元厚生労働省事務次官	外部有識者	大学病院長選考委員会規程 第3条6号の学外の有識者として、元厚生労働省事務次官の経験から、医療行政を把握しているとともに、医療・保健・福祉全般に関する豊富な知見を有しているため。	1980年 東京大学法学部卒業 1980年 旧厚生省入省 2012年 厚生労働省官房長 2014年 厚生労働省医政局長 2015年 厚生労働省事務次官 2017年 退官 2020年 東レ株式会社 社外取締役
小山信彌	東邦大学	外部有識者	大学病院長選考委員会規程 第3条6号の学外の有識者として、東邦大学名誉教授として医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1972年 東邦大学医学部卒業 1991年 同 大学 心臓血管外科学講座 助教授 1995年 同 大学 心臓血管外科学講座 教授 2000年 東邦大学医学部付属大森病院 院長 2012年 東邦大学医学部 特任教授、名誉教授 2021年 日本私立医科大学協会 参与

2022年度 管理運営会議 出席者

2022年9月28日
6月22日修正

	リハビリテーション科部長 リハビリテーションセンター長、脊椎センター副センター長 人工関節センター副センター長	ササキ 佐々木	ノブユキ 信幸	
	緩和ケア科部長 緩和ケアセンター長 病理診断科技術課長	ハシグチ 橋口	さおり	
		オオカワ 大川	チエ 千絵	
病院 長直轄	医療安全管理室長 消化器・肝臓内科副部長、内視鏡センター長 医療安全管理室主幹	ヤスダ 安田	ヒロシ 宏	
		ウチカワ 内川	タカコ 隆子	
	医療安全管理室参事	キタハラ 北原	ケイコ 圭子	
	感染制御部長 感染症センター副センター長	タケムラ 竹村	ヒロム 弘	
診療 施設 部門	ハートセンター長 循環器内科副部長 心不全センター長	ハラダ 原田	トモオ 智雄	
		イシバシ 石橋	ユウキ 祐記	
	腎臓病センター長 腎臓・高血圧内科副部長 胆道・膵臓病センター長	サクラダ 櫻田	ツトム 勉	
		コバヤシ 小林	シンジロウ 慎二郎	
	肝疾患医療センター長 臨床検査部副部長 脊椎センター長 整形外科副部長 精神療法・ストレスケアセンター長	ワタナベ 渡邊	ツナマサ 綱正	
		アカザワ 赤澤	ツトム 努	
		ナカガワ 中川	アツオ 敦夫	
	認知症（老年精神疾患）治療研究センター長	カサスキ 笠貴	コウジ 浩史	
	統合失調症治療センター長 精神療法・ストレスセンター副センター長 リハビリテーションセンター参与	アンドウ 安藤	クミコ 久美子	
		ワタナベ 渡辺	サトシ 敏	
	感染症センター長 感染制御部副部長 夜間急患センター長 救急科副部長、心不全センター副センター長 健康診断センター長	クニシマ 國島	ヒロユキ 広之	
		ヨシダ 吉田	トオル 徹	
		ハラ 原	マサシ 正壽	
	診療 協力 部門	臨床検査部長	ノブオカ 信岡	サチヒコ 祐彦
		臨床検査部参与 臨床検査部副部長 超音波センター長	ヤマザキ 山崎	サトシ 哲
		イズモ 出雲	マサキ 昌樹	
画像センター技術課長		モリ 森	ジュイチ 寿一	
臨床検査部技術技術課長（輸血部）		イノ 井野	チさと ちさと	
クリニカルエンジニア部参事		オオカワ 大川	オサム 修	
中央器材室長 麻酔科副部長、中央手術部副部長 薬剤部参与		サカモト 坂本	ミキ 三樹	
医療 支援 管理 部門		サカウエ 坂上	イツコウ 逸孝	
	栄養部長	シバタ 柴田	みち みち	
	メディカルサポートセンター課長	ホンダ 本田	カズトシ 和俊	
	治験管理室長	マツモト 松本	ナオキ 直樹	
	治験管理室課長	ミヤザキ 宮崎	カンナ カンナ	
	放射線管理室長	マエハラ 前原	ヨシアキ 善昭	
	移植医療支援室長	ナワタ 縄田	カン 寛	
	診療記録管理室主幹	ドイ 土井	マサミ 正美	
事務 部門	病院事務統括担当執行役員	ネヅ 根津	ヤスヒロ 保廣	
	事務部部长 診療記録管理室副室長 事務部参事兼管理課課長	アンドウ 安藤	あゆ あゆ	
		クサナギ 草薨	タクヤ 拓也	
	医事課課長	コイツ 小磯	アキオ 晃生	
その 他 事務 部門	病院経営管理室長	カワセ 川瀬	ヒロカズ 弘一	
	総務部課長	オクシマ 奥島	ヒデアキ 英明	
	人事部門担当執行役員	スガハラ 菅原	トシヤ 敏弥	
	財務部財務課課長	ムラタ 村田	タケシ 武司	
	施設部施設環境課課長	キタバヤシ 北林	マサヒコ 正彦	
	調達部参事兼購買・物品管理課課長	エンドウ 遠藤	トシヤ 俊弥	
	I T 戦略推進室室長 情報部門担当執行役員	シモヒラ 下平	ヒデフミ 秀文	
	臨床研修センター課長	ササキ 佐々木	トオル 亨	
看護師特定行為研修センター副センター長	タノ 鷹野	イクヨ 郁与		

2022年度 管理運営会議 出席者

2022年9月28日
6月22日修正

組織図上の役職等		氏名	
病院長・副院長	病院長	オオツボ 大坪	タケヒト 毅人
	副院長 呼吸器内科部長 【医療安全、感染対策、機能評価、新病院建設】 呼吸器病センター長、夜間救急センター副センター長	ミネシタ 峯下	マサミチ 昌道
	副院長 整形外科部長 【病床管理、診療報酬、医療器材・薬事、教育・研修】 リウマチ・膠原病生涯治療センター副センター長 人工関節センター長	ニキ 仁木	ヒサテル 久照
	副院長 救急科部長 【労働安全衛生、選定療養、附属病院間連携、保育園】 救命救急センター長、看護師特定行為研修センター長	フジタニ 藤谷	シゲキ 茂樹
	副院長 循環器内科部長 【IT化推進、診療情報、地域連携、臨床倫理】 救命救急センター副センター長、メディカルサポートセンター長	アカシ 明石	ヨシヒロ 嘉浩
	副院長 看護部長 【看護・病床管理担当】	モトダテ 本館	ノリコ 教子
病院顧問	タイラ 平	サセヒコ 泰彦	
診療部門	総合診療内科部長 内科総合診療部長	オオハラ 大平	ヨシユキ 善之
	消化器内科部長	タケシ 立石	ケイスケ 敬介
	腎臓・高血圧内科部長 クリニカルエンジニア部副部長	シバガキ 柴垣	ユウゴ 有吾
	代謝・内分泌内科部長 糖尿病センター長、内分泌疾患センター長	ソネ 曾根	マサカツ 正勝
	脳神経内科部長 脳卒中センター長、ゲノム医療推進センター長 パーキンソン病治療センター長、てんかんセンター副センター長	ヤマノ 山野	ヨシヒサ 嘉久
	血液内科部長 輸血部長	アライ 新井	アヤコ 文子
	リウマチ・膠原病・アレルギー内科部長 リウマチ・膠原病生涯治療センター長 人工関節センター副センター長	カワハタ 川畑	キミト 仁人
	腫瘍内科部長 腫瘍センター長、ゲノム医療推進センター副センター長	スナカワ 砂川	ユウ 優
	神経精神科部長 精神療法・ストレスケアセンター長	ゴチヤ 古茶	ヒロキ 大樹
	小児科部長 こどもセンター長、てんかんセンター長、 リウマチ・膠原病生涯治療副センター長、救命救急副センター長、 看護師特定行為研修センター副センター長	シミズ 清水	ナオキ 直樹
	新生児科部長 総合周産期母子医療センター長	ホクウ 北東	イサム 功
	消化器・一般外科部長 中央手術部長	ミカミ 村上	シンヤ 真也
	心臓血管外科部長 ルイット心臓大動脈治療センター長、ハートセンター副センター長	ミヤケ 宮入	タケシ 剛
	呼吸器外科部長 呼吸器病センター副センター長	サジ 佐治	ヒサシ 久
	小児外科部長 臨床研修センター長、総合周産期母子医療センター副センター長、こども センター副センター長	フルタ 古田	シゲユキ 繁行
	乳腺・内分泌外科部長 遺伝診療部長、腫瘍センター副センター長	ツ 古フ 津川	コウイチロウ 浩一郎
	脳神経外科部長 脳卒中センター副センター長	ムラタ 村田	ヒデトシ 英俊
	形成外科部長	カヅカワ 梶川	アキヨシ 明義
	皮膚科部長 診療記録管理室長	カドノ 門野	タカフミ 岳史
	腎泌尿器外科部長	キクチ 菊地	エイジ 栄次
	産科・婦人科部長 腫瘍センター副センター長、生殖医療センター長	スズキ 鈴木	ナオ 直
	眼科副部長	トクダ 徳田	ナオト 直人
	耳鼻咽喉科部長	コモリ 小森	マナブ 学
	放射線診断・IVR科部長 画像センター長	ミムラ 三村	ヒデフミ 秀文
	放射線治療科部長 放射線治療センター長	ナカムラ 中村	ナオキ 直樹
	麻酔科部長 クリニカルエンジニア部長、脊椎センター副センター長、中央手術部副部長	イノウエ 井上	ソウイチロウ 荘一郎
	病理診断科部長	コイケ 小池	ジュンキ 淳樹

聖マリアンナ医科大学病院 監査委員会名簿

医療安全管理業務の執行状況を監査するために、委員長及び委員の過半数が当院と利害関係のない監査委員会を設置いたしました。
 (医療法施行規則第15条の4第1項第2号に基づく委員会) (令和3年4月1日)

開設者(理事長) 明石 勝也

氏名	所属・役職	委員	選定理由	利害関係	委員の要件
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、 山本柴崎法律事務所 弁護士	委員長 (外部委員) 再任	一橋大学教授、九州大学・北海道大学等多数の大学の講師及び司法研究所講師等の教職、日本民事訴訟法学会、日本私法学会及び仲裁ADR学会等の理事、法制審議会幹事・臨時委員、下級裁判所裁判官指名諮問委員会委員、最高裁判所民事規則諮問委員会委員及び司法試験考査委員等の法律立案・法曹養成等の公職、学校法人藤村学園副理事長を歴任し、さらに長年にわたってカンボディア王国及び中華人民共和国の法整備の支援に尽力され、日本を代表する民事訴訟法学者である。 また、平成21年には本院の医療事故調査委員会外部委員を務めたほか、医療事故を代表する判例の解説(「ルンバール事件」)民事訴訟法判例百選第4版)を著すなど、医療関係の法務についても深い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られているところであり、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
小林 信秋	認定NPO法人 難病のこども支援 全国ネットワーク会 顧問	委員 (外部委員) 再任	文部科学省や厚生労働省の協力委員や検討委員などを歴任され、様々な立場での見識を有し、長年にわたり患者の立場に立った活動を行っている。 また、一般の立場を代表する者として、他医療機関の倫理委員や本学の生命倫理委員会特定認定再生医療部会委員を務め、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授	委員 (外部委員) 再任	心臓外科医の指導医として活躍、国立保健医療科学院政策科学部安全科学室長を務め、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部准教授、東京医科大学医療安全管理学講座主任教授を経て現職。 インフェクションコントロールドクター(ICD)、日本医療の質・安全学会理事、日本医療・病院管理学会評議員、日本呼吸器外科学会評議員、横浜市立大学病院外部評価委員会委員長を務める。 感染制御および医療安全管理業務の経験を有する委員として見識を有している。人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
益子 まり	川崎市非常勤嘱託産業医	委員 (外部委員) 再任	小児科医として実務経験後、地域の医療行政を推進、川崎市保健所長を務める。医療現場で医療安全に関する法律が適切に実施されているのを監督する立場にあり見識を有する。川崎市内の特定機能病院である当院の医療安全の実施に指導的役割を担ってこられた経験があり、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
中尾 智彦	内部監査室 室長	委員 (内部委員) 再任	法人の法務・監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	有	その他